

伊勢遺跡確認調査報告書Ⅳ

守山市文化財調査報告書

平成18年(2006) 3月

滋賀県守山市教育委員会

序 文

守山市は滋賀県南部地域に立地しており、古くから交通の要衝として発達してきました。京都に隣接し、中山道沿いの宿場町として発達し、野洲川を遡り伊勢・東海地域にも繋がっていました。高度成長期には京阪神のベッドタウンとして新興住宅街ができ、アパートやマンションも建設されました。現在でも宅地造成後、一戸建て住宅が次々と分譲されており、人口増加が続いています。守山が交通の便もよく、住環境に優れた町であることを示しています。

一方で宅地開発等に伴って、新たに遺跡が発見されたり調査されることが多くなりました。開発に伴う発掘調査によって、貴重な埋蔵文化財が次々と発見されました。特に、服部遺跡や下之郷遺跡、伊勢遺跡、下長遺跡など全国的にみても貴重な遺跡が存在することがわかってきたのです。

守山市内の遺跡からムラから「国」へ発展する様子がわかるようになってきました。伊勢遺跡は弥生時代後期の巨大集落で、大型建物が計画的に造営され、国としてまとまっていく様子をたどることができる貴重な遺跡であることが判明してきました。守山市では遺跡の保存を目的とした確認調査を地権者や地元の方々の協力を得て進めています。その過程で、伊勢遺跡の実態が少しずつわかってきました。最後になりましたが、調査にご協力頂いた関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

守山市教育委員会
教育長 山 川 芳志郎

例 言

1. 本書は、平成14・15年度に実施した伊勢遺跡の範囲確認調査の調査報告書である。調査は国宝重要文化財等保存整備費補助金を得て実施した。整理業務は平成17年度国宝重要文化財等保存整備費補助金を得て実施した。
2. 本調査は、守山市伊勢町字南代633番地他の水田地で行った。
3. 本調査は、守山市教育委員会（教育長 山川芳志郎）が実施した。
4. 本発掘調査は平成14年6月18日から平成16年3月1日の期間現地調査を実施した。なお、調査整理業務は平成17年6月22日より平成18年3月20日まで実施した。
5. 発掘調査・整理調査業務にかかる教育委員会事務局は以下の体制で実施した。

平成14年度確認調査		平成15年度確認調査		平成17年度整理調査	
教育長	川端 弘	教育長	山川芳志郎	教育長	山川芳志郎
教育部長	山中憲三	教育部長	津田重幸	教育部長	津田重幸
教育次長	西田 実	教育次長	宇野勘一郎	教育次長	森 俊晴
文化財担当課長	山崎秀二	文化財保護課長	山崎秀二	文化財保護課長	山崎秀二
調査担当者	畑本政美 伴野幸一	調査担当者	伴野幸一	調査担当者	畑本政美・伴野幸一

7. 発掘調査・整理業務及び本報告書作成については伴野が担当した。
なお、84次調査は畑本が調査を担当し執筆した。
8. 本報告書では標高は東京湾ポイントを使用し北方位は日本平面国家座標六系のX座標を指す。
9. 本調査にかかる遺物・図面・写真資料は、市立埋蔵文化財センターに保管している。

伊勢遺跡重要遺跡確認調査調査報告書Ⅳ

目 次

序 文 例 言

目 次 挿 図 目 次 図 版 目 次

第 1 章	確認調査に至る経緯と伊勢遺跡の歴史的環境	1
	第 1 節 確認調査に至る経緯	1
	第 2 節 伊勢遺跡の歴史的環境	1
	第 3 節 伊勢遺跡既往調査一覧表	2
第 2 章	確認調査の成果	8
	第 1 節 第77次調査の成果	8
	第 2 節 第78次調査の成果	10
	第 3 節 第79次調査の成果	12
	第 4 節 第82次調査の成果	15
	第 5 節 第84次調査の成果	17
	第 6 節 第85次調査の成果	19
	第 7 節 第86次調査の成果	20
	第 8 節 第87次調査の成果	21
	第 9 節 第90次調査の成果	23
	第10節 第91次調査の成果	25
第 3 章	まとめ－伊勢遺跡の南側の空間利用と導水施設	26

挿 図 目 次

- 挿図 1 野洲川流域の遺跡分布図
- 挿図 2 伊勢遺跡全体図
- 挿図 3 第77次調査位置図
- 挿図 4 第77次調査平面図・断面図
- 挿図 5 第78次調査位置図
- 挿図 6 第78次調査平面図・断面図
- 挿図 7 第79次調査位置図
- 挿図 8 第79次調査全体図
- 挿図 9 第79次調査出土遺物
- 挿図10 第79次調査 S H - 1 平面図・断面図
- 挿図11 第82次調査位置図
- 挿図12 第82次調査平面図
- 挿図13 第84次調査位置図
- 挿図14 第84次調査全体図
- 挿図15 第84次調査出土遺物
- 挿図16 第85次調査位置図
- 挿図17 第85次調査平面図
- 挿図18 第86次調査位置図
- 挿図19 第86次平面図
- 挿図20 第87次調査位置図
- 挿図21 第87次調査平面図・断面図
- 挿図22 第90次調査位置図
- 挿図23 第90次調査平面図・断面図
- 挿図24 第91次調査位置図
- 挿図25 第91次調査平面図
- 挿図26 伊勢遺跡全体図
- 挿図27 S D - 1 ・ S X - 1 と出土遺物 (45次調査)
- 挿図28 伊勢遺跡東半部平面図
- 挿図29 服部遺跡・伊勢遺跡の導水施設

図 版 目 次

- | | | | |
|------|--------------------|-------------------|------------------------|
| 図版 1 | 伊勢遺跡77次調査 | (上) 調査地全景 (南から) | (下) 調査地全景 (東から) |
| 図版 2 | 伊勢遺跡78次調査 | (上) S H - 1 検出状況 | (下) S H - 1 掘削風景 (東から) |
| 図版 3 | 伊勢遺跡79次調査 | (上) 調査地全景(東から) | (下) 調査地全景(西から) |
| 図版 4 | 伊勢遺跡82次調査 | (上) 遺構検出状況(東から) | (下) 遺構検出状況 (北東から) |
| 図版 5 | 伊勢遺跡84次調査 | (上) 調査前風景 (南東から) | (下) 遺構検出状況(北西から) |
| 図版 6 | 伊勢遺跡84次調査 | (上) 調査地全景 (南東から) | (下) S H - 1 検出状況 (北から) |
| 図版 7 | 伊勢遺跡85次調査 | (上) 調査前風景 (東から) | (下) 調査地全景 (北から) |
| 図版 8 | 伊勢遺跡86次調査 | (上) 遺構検出状況 (北西から) | (下) 遺構検出状況 (北西から) |
| 図版 9 | 伊勢遺跡87次調査 | (上) 調査地全景 (南西から) | (下) 遺構検出状況 (南から) |
| 図版10 | 伊勢遺跡87次調査 | (上) 調査風景 (北東から) | (下) 調査地全景 (南西から) |
| 図版11 | 伊勢遺跡87次調査 | (上) 旧河道断面 (西から) | (下) 旧河道断面 (北から) |
| 図版12 | 伊勢遺跡90次調査 | (上) 調査地全景 (西から) | (下) 調査地全景 (南東から) |
| 図版13 | 伊勢遺跡90次調査 | (上) 調査地全景 (南から) | (下) 遺構検出状況 (南から) |
| 図版14 | 伊勢遺跡91次調査 | (上) 遺構検出状況 (南西から) | (下) 遺構検出状況 (北西から) |
| 図版15 | 伊勢遺跡78・84次調査出土遺物写真 | (上) 第78次調査出土遺物 | (下) 第84次調査出土遺物 |

第1章 調査に至る経過及び伊勢遺跡の歴史的環境

第1節 確認調査に至る経緯

伊勢遺跡は昭和56年、個人住宅の建築に先立つ試掘調査（第1次調査）によって発見された弥生時代後期の遺跡である。平成18年3月現在までに99次にわたる調査が行われ、特異な集落遺跡であることが判明している。平成4年に弥生時代後期としては全国最大級の大型建物S B-1が発見された。この建物の発見は栗東市下鉤遺跡とともに、近畿地方の弥生遺跡にも大型建物が存在することが初めて明らかになった調査であり、学史的にも重要な位置をしめている。その後、兵庫県武庫庄遺跡や大阪府池上曾根遺跡などで次々と大型建物が発見され、弥生集落の中心部に象徴的な建造物があったことが明らかになった。伊勢遺跡では道路建設や宅地造成によって、平成5年から平成8年にかけて新たに5棟の棟持柱を持つ大型建物が存在することが判明し、重要な歴史的意義をもつ遺跡であることが一層明らかとなっていった。守山市では平成9年度から、開発が迫る伊勢遺跡中心部の確認調査を開始し、遺跡の性格や広がりやを事前に把握することに努めた。その結果、平成10年には独立棟持柱付き大型建物S B-5、楼観と見られる3間×3間の総柱式建物S B-10の存在が明らかになったほか、平成11年には中心部の大型建物S B-1は2棟の建物が重複していることがわかった。さらに平成13年には大洲地区で独立棟持柱付き大型建物S B-12が発見され、大型建物が円周状に配置されていることがわかった。さらに、平成14年には弧状に並ぶ大型建物の外側に床面積が185㎡を越す大型堅穴建物が発見された。この建物の床や壁にはレンガ状に焼いた遺構がみられ、特異な施設をもつことが判明した。以上のように、伊勢遺跡の東半側には大型建物が集中することが確認調査によって明らかとなった。伊勢遺跡は紀元2世紀を中心とする「国」の中樞機能をもつ遺跡と考えられ、大型建物群は政治・祭祀を執り行う施設と考えられる。

調査にあたっては地元伊勢町・阿村町の地権者の了解を受け、平面検出を基本とし遺跡の広がりや性格の把握に努めた。遺構の時期決定や性格を掴む上で必要と判断される場合、滋賀県教育委員会文化財保護課と協議のうえ、最小限の掘削調査を行った。調査終了後は、重機及び人力によって埋め戻し原状復旧に努めた。

第2節 伊勢遺跡の歴史的環境

野洲川が形成した広大な沖積平野には多数の弥生集落が営まれている。湖岸近くの三角州上には弥生前期に造営された水田や、360基以上の方形周溝墓が検出された服部遺跡が存在する。服部遺跡は弥生・古墳時代を通して営まれた巨大集落遺跡であるが、低地部には小津浜遺跡や烏丸崎遺跡など大規模な集落遺跡が埋没しているものとみられる。

弥生中期中葉、中国地方に生まれたとみられる凹線文は中期後葉に東方に波及してくる。凹線文波及期には扇状地末端に集落遺跡が出現する。多重の環濠をもつ下之郷遺跡などがそれである。中期末には栗東市下鉤遺跡や守山市二ノ畦・横枕遺跡などで巨大な環濠集落が営まれており、扇状地先端に数キロごとに分布している。これらの環濠集落内には東海や近畿各地の土器が持ち運ばれているほか、鉄製品や銅製品が出土しており、活発な交流拠点であったことが窺える。しかし、中期末～後期初頭にかけて環濠集落群は解体しており、近畿の拠点集落と同じ動きをしていることがわかる。

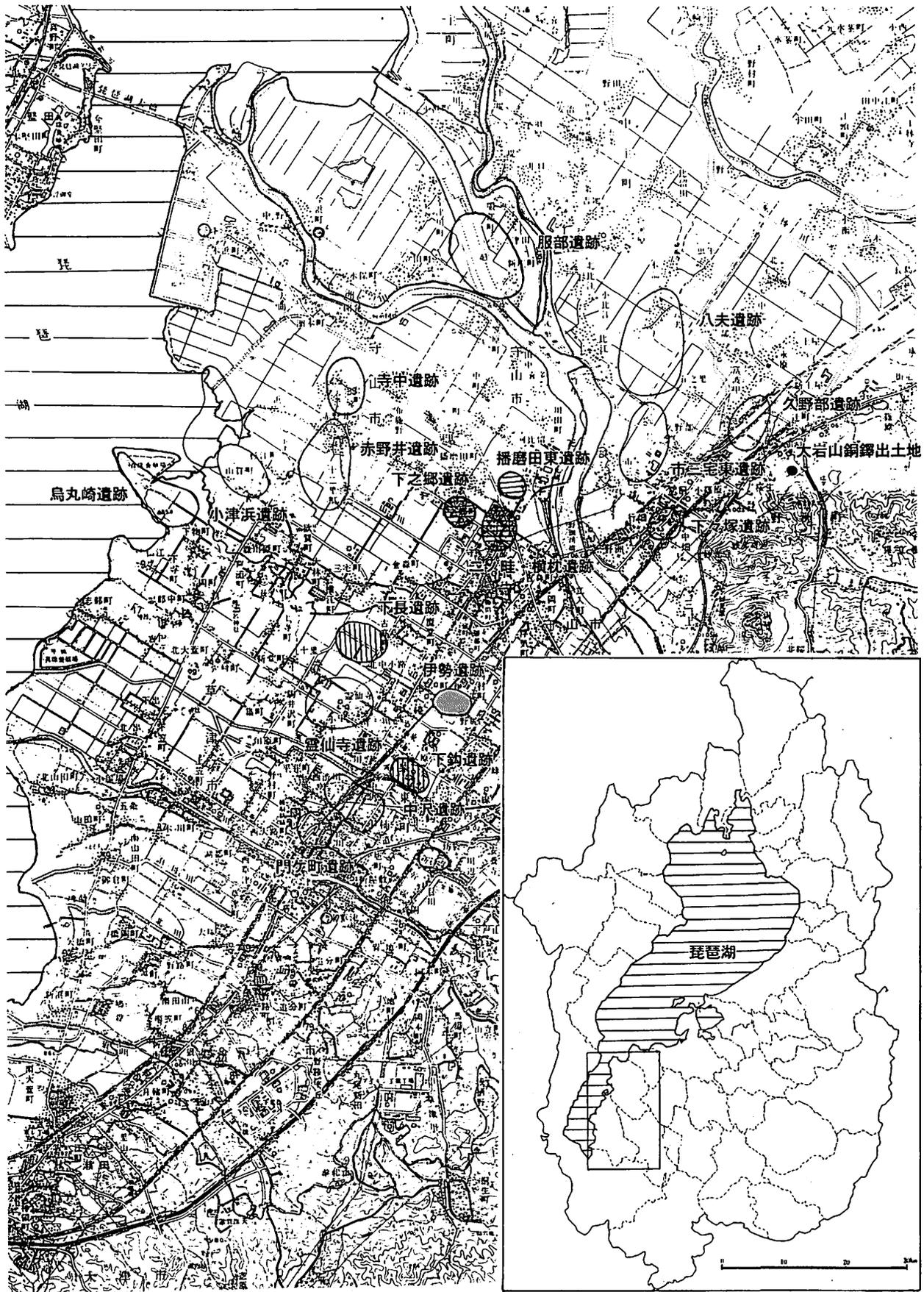
中期の大規模な集住と環濠に対して、後期は小規模・散在型の集落景観へと大きく変化している。後期前半の酒寺遺跡では方形の環濠の中に13棟の堅穴住居が存在するが、その他は数棟の堅穴住居からなる集落であり、居住形態が大きくかわっていることがわかる。このような集落景観の大きな変化のなかで伊勢遺跡が出現しているのである。伊勢遺跡は標高100m前後の微高地上にあり、かつての集落立地とは異なる

る高燥地に営まれている。小水系ごとに大規模な集落遺跡が営まれていたのに対して、野洲川流域全体の政治・祭祀を執り行う遺跡として特殊に発達し、他は小集落が消費・生産単位として分散する社会構成を生みだしたものとみられる。

しかし、後期末には伊勢遺跡は衰退し、古墳時代には湖上交通の拠点とみられる下長遺跡が出現するが、近江の諸勢力は、ヤマト政権の誕生と無縁ではなかったと思われる。各地に割拠した小国が、古墳時代の新たな政権の誕生とともに役割を終えていったとみられるが、下長遺跡の首長層は初期ヤマト政権の下部機関として各地と活発に交流していたと考えられる。

第3節 伊勢遺跡既往調査一覧表

伊勢遺跡は昭和56年に発見されて以来、平成18年3月末までに99次に及ぶ発掘調査を行っている。本報告では平成14・15年度に実施した77・78・79・82・85・86・87・89・90・91次の確認調査の成果を収録している。本書に収録している調査は共同住宅等、民間開発に先立ち確認調査を実施したものである。その大半は平成7年度に完成した区画整理事業地内にあり、全体に遺構密度は希薄であった。現地調査は遺構検出を基本とし、調査終了後は保護層を設け、開発によって傷まないように設計変更等の協力を依頼した。

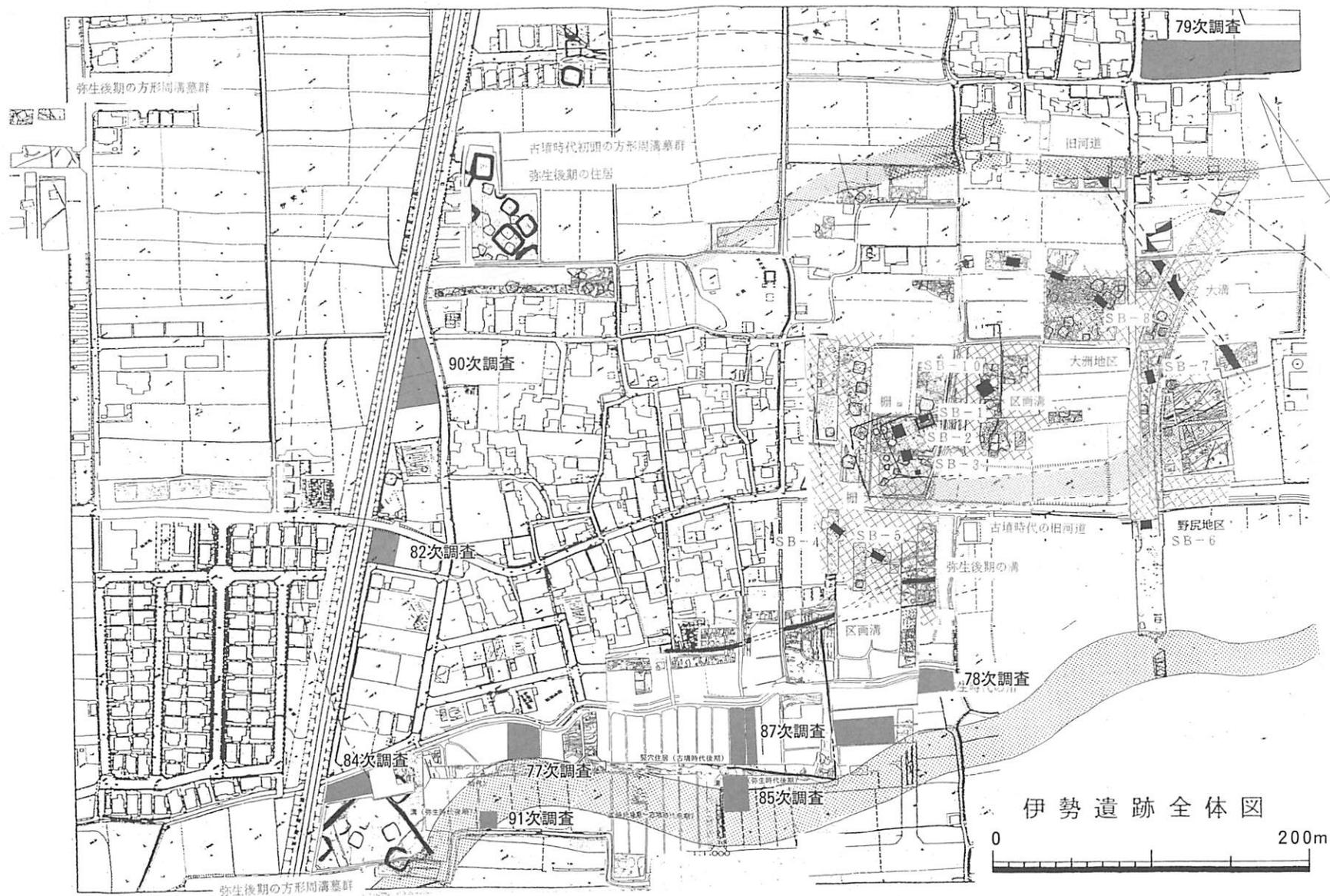


挿図1 野洲川流域の遺跡分布図

調査次数	所在地	調査期間	調査原因	面積	参考文献	調査概要
1次	伊勢町字中東浦75	昭和56年1月16日～ 昭和56年1月22日迄	個人住宅	約50㎡	乙貞1号	試掘により弥生後期の遺跡の存在を確認。 柱穴・溝（方形周溝基か）
2次	伊勢町字中東浦76・77・ 82-1	昭和56年4月13日～ 昭和56年7月10日迄	宅地造成 県経済連	約3,000㎡	滋賀文化財だより67号15 乙貞4・5号	弥生後期の竪穴住居9棟検出。内1 棟は五角形住居。堀の検出。 鎌倉時代の掘立柱建物・井戸等検出。
3次	伊勢町字大苗代309-9、 311-1	昭和56年7月10日～ 昭和56年9月30日迄	宅地造成 県経済連	約3,000㎡	乙貞5号	弥生後期の竪穴住居10棟検出。内1棟 は五角形住居。古墳時代初期から前期 にかけての方形周溝墓8基を検出。
4次	伊勢町字大將軍2丁田 344・343	昭和57年4月12日～ 昭和57年4月26日迄	農業倉庫	約400㎡ /580㎡	守文報第12冊 乙貞6.7	弥生後期の五角形住居1棟。平安後期 の溝・土城・柱列・井戸等を検出。五 角形住居から弥生後期の土器群が出土。
5次	伊勢町字西浦537	昭和57年5月	個人住宅 カミヤブ工機	約100㎡	守文報第12冊	弥生後期の溝。
6次	伊勢町451-1 他二町町30-1	昭和58年9月2日～ 昭和58年9月30日迄	宅地造成 大島鐵工業機	約2,000㎡	守文報第15冊	奈良時代の掘立柱建物1棟・ 溝を検出。
7次	伊勢町451-8 他二町町30-1	昭和59年5月30日～ 昭和59年6月17日迄	宅地造成 大島鐵工業機	約1,000㎡	守文報第15冊	奈良時代の掘立柱建物1棟・ 溝を検出。
8次	伊勢町字西浦537・538	昭和59年11月9日～ 昭和59年11月30日迄	個人住宅	70㎡ /174㎡	守文報第20冊	溝
9次	阿村町字下番田151- 3	昭和59年4月5日	資材置き場 滋賀県経済 農業共同組合 試掘	約300㎡ /476㎡		旧河道
10次	伊勢町字二丁田327- 3	昭和59年11月10日～ 昭和59年12月1日迄	個人住宅	約700㎡ /1,269㎡	守文報第20冊	弥生後期の竪穴住居1棟検出。 奈良・平安時代の掘立柱建物・溝、 鎌倉時代の建物・井戸
11次	伊勢町字西浦540	昭和59年12月10日～ 昭和59年12月14日迄	個人住宅	200㎡	守文報第26冊	溝（しがらみ遺構）
12次	伊勢町字伊勢里177- 1	昭和62年12月19日～ 昭和63年12月26日迄	農業倉庫	405㎡	守文報第33冊	溝4条、土城6基、柱穴、中 世とみられる。
13次	伊勢町字大苗代303- 12	平成元年1月13日～ 平成元年2月8日迄	個人住宅	300㎡	守文報第33冊 乙貞43号	古墳時代初期の方形周溝墓2基、 溝・柱穴 奈良時代（8世紀前半）
14次	伊勢町字上阿ノ図19- 1 外4筆	平成2年4月20日～ 平成2年6月4日迄	宅地造成 石橋産業	2000㎡ /12,464㎡	乙貞51号	古墳時代・鎌倉時代の溝、奈良時 代の溝2条。江戸時代の井戸。
15次	伊勢町字伊勢里322- 3	平成2年12月13日～ 平成2年12月14日迄	個人住宅	20㎡ /149㎡	守文報第43冊	弥生後期から古墳後期の遺物包含 層。鎌倉時代の柱穴
16次	伊勢町字二丁田347- 1	平成2年2月4日～ 平成2年2月23日迄	個人住宅	978㎡	守文報第43冊	鎌倉時代の掘立柱建物・溝・ 土城
17次	伊勢町二丁田	平成2年2月 日～ 平成2年4月 日迄	宅地造成	450㎡	乙貞55号	鎌倉時代の溝・掘立柱建物6棟、 土城7基 江戸時代の井戸
18次	伊勢町字中東浦81-1	平成2年6月28日～ 平成2年8月8日迄	倉庫建設	888㎡	守文報第42冊 乙貞51号	弥生後期の竪穴住居9棟・溝・独立棟柱付 建物。鎌倉時代の掘立柱建物・旧河道
19次	伊勢町字井上125	平成4年1月28日～ 平成4年1月30日迄	個人住宅	330㎡	守文報第44冊 乙貞61号	弥生後期末の竪穴住居・方形周溝 墓・溝。縄文晩期の深鉢・石鏡
20次	伊勢町字大將軍513- 1・513-2	平成4年6月8日～ 平成4年6月10日迄	倉庫建設	約100㎡ /948㎡	乙貞63号	弥生後期の竪穴住居1棟（五 角形住居か）旧河道
21次	伊勢町字中東浦80	平成4年6月25日～ 平成4年9月25日迄	倉庫建設	870㎡	現説資料92.9.19 乙貞64・65 伊勢遺跡確認調査報告書2003/3	弥生後期の大型建物3棟（SB-1・ 2・3）竪穴住居7棟・柱穴多数。 鎌倉時代の掘立柱建物4棟
22次	伊勢町字高関459	平成4年7月29日～ 平成4年9月5日迄	共同住宅	600㎡	守文報第48冊 乙貞64号	弥生後期の方形周溝墓3基。 古墳時代後期から平安時代の溝。
23次	伊勢町字西浦553	平成4年9月1日～ 平成4年9月15日迄	個人住宅	227㎡	守文報第47冊	弥生後期の自然流路（土器出 土）。
24次	伊勢町字溝崎 411-1 412-1	平成5年4月23日～ 平成5年6月30日迄	共同住宅	2279㎡	乙貞69号	鎌倉時代の掘立柱建物・溝。
25次	伊勢町字大苗代308- 2	平成5年5月15日～ 平成5年5月29日迄	個人住宅	240㎡ /500㎡	守文報第53冊 乙貞69号	弥生後期の大型溝。古墳時代前 期の方形周溝墓1基。
26次	伊勢町字溝崎409	平成5年6月7日～ 平成5年6月12日迄	共同住宅	1292㎡ /1308㎡	乙貞69号	耕作跡
27次	伊勢町字伊勢里323- 3	平成5年9月21日～ 平成5年10月15日迄	共同住宅	500㎡ /998㎡	乙貞71号	弥生後期の竪穴住居2棟・土 城6基。
28次	伊勢町字南東浦84-1 他	平成5年10月26日～ 平成7年5月31日迄	区画整理	10,000㎡	乙貞72.73.74.75号 守文報第63.77.80冊	弥生後期の大型建物・区画溝・方形周溝墓。 鎌倉時代の掘立柱建物・区画溝池
29次	伊勢町字西浦531他	平成5年10月 平成6年1月 迄	公共下水	606㎡	乙貞73号表	
30次	伊勢町字高崎460	平成6年5月23日～ 平成6年5月27日迄	共同住宅 東和不動	400㎡	乙貞79表	弥生中期の方形周溝墓。
31次	伊勢町字伊勢里322	平成7年1月24日～ 平成7年2月17日迄	公共下水	200㎡	乙貞85号表	弥生後期から鎌倉。
32次	伊勢町字伊勢里257	平成7年9月15日	個人住宅	396㎡	守文報第61冊	井戸（近世）
33次	伊勢町字大苗代302 304-7	平成7年12月20日～ 平成8年1月31日迄	共同住宅 伊藤工務	500㎡ /1312.9㎡	乙貞84号	縄文時代の土城・柱穴。

調査次数	所在地	調査期間	調査原因	面積	参考文献	調査概要
34次	伊勢町伊勢里525	平成8年3月4日～平成8年3月22日迄	個人住宅	346㎡	乙貞85号 守文報第61冊	鎌倉時代の掘立柱建物・溝・土壇
35次	二町町字北上代7-5、9-2	平成8年7月22日～平成8年8月26日迄	宅地造成 高森ハウス	336㎡ /2,094㎡	乙貞88号	弥生後期の方形周溝墓・竪穴住居。
36次	伊勢町字大將軍516-1	平成8年11月13日～平成8年11月26日迄	個人住宅	120㎡ /218㎡	乙貞90号 守文報第61冊97年3	弥生後期の周壁溝が巡る五角形住居。中世の溝。
37次	伊勢町字西浦520 521	平成8年11月13日～平成8年11月21日迄	共同住宅	117㎡ /368㎡	乙貞90号	溝3条・土壇2基・柱穴。
38次	伊勢町字南代104	平成8年11月20日～平成8年12月7日迄	共同住宅	117㎡ /316㎡	乙貞90号	溝5条・土壇1基。
39次	伊勢町伊勢里	平成9年1月31日～平成9年2月14日迄	個人住宅	80㎡ /368㎡	乙貞91号 守文報第66冊98年3	溝3条・土壇2基・柱穴。
40次	伊勢町字南代3街区9	平成9年4月24日～平成9年6月13日迄	共同住宅	323㎡ /1,148㎡	乙貞93号	旧河道。
41次	伊勢町字西浦548-2	平成9年5月16日～平成9年月日迄	個人住宅	25㎡	守文報第66冊 98年3	中世の土壇。
42次	伊勢町字西浦548-1	平成9年6月26日～平成9年月日迄	個人住宅	25㎡	守文報第66冊 98年3	古墳時代前期の溝。中世の土壇。
43次	伊勢町字南代14街区4	平成9年8月4日～平成9年8月26日迄	個人住宅	374㎡ /745㎡	乙貞94号 守文報第66冊98年3	掘立柱建物4棟、中世の井戸1基。
44次	伊勢町字南代14街区7	平成9年10月8日～平成9年11月6日迄	共同住宅	220㎡ /768㎡	乙貞95号	弥生竪穴住居1棟・独立棟持付大型建物(SB-4)・土壇2基・柱穴多数。中世の溝。
45次	伊勢町伊勢里10街区4	平成9年11月22日～平成9年12月24日迄	個人住宅	433㎡ /500㎡	乙貞96号 守文報第66冊98年3	弥生溝1条。中世区画溝・掘立柱建物1棟、井戸1基 柱穴多数
46次	伊勢町字中東浦80	平成10年1月22日～平成10年3月4日迄	確認調査	100㎡	乙貞97号 伊勢遺跡確認調査報告書2003/3	弥生後期の竪穴住居7棟・柱穴多数・土壇。
47次	伊勢町字稗田396	平成10年3月13日～平成10年3月14日迄	宅地造成	60㎡ /2,200㎡	乙貞97号	溝1条、古墳時代後期柱穴1個。
48次	伊勢町字南東浦91	平成10年5月21日～平成10年6月19日迄	確認調査	150㎡	乙貞99号 現説資料98.6.14 伊勢遺跡確認調査I	独立棟持付大型建物1棟(SB-5) 柱根2出土・柱穴多数。中世の溝1条。
49次	阿村町字上番田143-1	平成10年9月16日～平成10年10月23日迄	工場建設	1856㎡	伊勢遺跡確認調査報告書I 2003.3	竪穴住居・溝。
50次	伊勢町字南東浦92・93	平成10年10月12日～平成10年11月12日迄	共同住宅	800㎡ /1,246㎡	伊勢遺跡確認調査報告書I 2003.3	溝・土壇・柱穴。 中世の掘立柱建物群。
51次	伊勢町字中東浦79-1	平成10年11月2日～平成10年11月20日	確認調査	500㎡	伊勢遺跡確認調査報告書I 2003.3	弥生後期の旧河道。
52次	阿村町156	平成10年11月20日～平成10年12月25日迄	確認調査	500㎡	乙貞102号 現説資料98.12 伊勢遺跡確認調査報告書I 2003.3	竪穴住居5棟・大型建物(SB-10)・溝・柱穴。
53次	阿村町157-1	平成10年12月4日～平成10年12月18日迄	確認調査	500㎡	乙貞102号	竪穴住居2棟・柱穴・溝。
54次	伊勢町字南代589	平成11年2月8日～平成11年2月18日迄	共同住宅	500㎡	乙貞103号 伊勢遺跡確認調査報告書I 2003.3	竪穴住居1棟・溝・柱穴。
55次	伊勢町字南代254	平成11年5月13日～平成11年5月17日迄	共同住宅	200㎡	乙貞109号表	旧河道。
56次	伊勢町字中東浦78	平成11年5月10日～平成11年7月8日迄	確認調査	800㎡	乙貞105号 現説資料99.7.3伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3	SB-1とSB-11の柱穴の切り合いを確認。 竪穴住居3棟・溝・柱穴多数。
57次	阿村町字上番田143-1	平成11年5月10日～平成11年8月25日迄	工場建設	2,000㎡ /3,288.99	乙貞106号 守文報第号	弥生後期竪穴住居1棟。古墳時代前期竪穴住居1棟・溝5条・旧河道。
58次	阿村町155 158-1	平成11年8月27日～平成11年9月14日迄	確認調査	400㎡	乙貞106号伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3	大型建物(SB-10)・竪穴住居の再調査。
59次	阿村町163	平成11年9月16日～平成11年9月30日迄	確認調査	200㎡	伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3	溝・竪穴住居1棟。
60次	阿村町155 158-1	平成11年9月27日～平成11年12月14日	確認調査	700㎡	乙貞107号 伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3	竪穴住居11棟・溝3条・土壇・柱穴。
61次	阿村町158-1	平成12年1月4日～平成12年1月18日迄	里道改良 工事	100㎡	伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3	竪穴住居3棟・溝・柱穴。
62次	伊勢町56	平成12年2月1日～平成12年3月21日迄	確認調査	400㎡	伊勢遺跡確認調査報告書III 2005.3 乙貞109号	竪穴住居1棟・焼土塊遺構・旧河道。
63次	伊勢町62	平成12年2月21日～平成12年3月21日迄	確認調査	500㎡	伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3	竪穴住居・柱穴・土壇。
64次	伊勢町56 59-1	平成12年6月26日～平成12年7月6日迄	確認調査	400㎡	乙貞113号 伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3	旧河道・土壇。
65次	伊勢町字南代646 647	平成12年8月22日～平成12年8月30日迄	共同住宅	250㎡	守埋文平成12年度年報	旧河道・攪乱土壇。
66次	阿村町142-1	平成12年9月11日～平成12年9月29日迄	確認調査	400㎡	伊勢遺跡確認調査報告書II 2004.3 乙貞113号	大溝1条・溝3条・土壇・柱穴。
67次	伊勢町171-1	平成12年10月30日～平成12年12月9日迄	確認調査	400㎡	伊勢遺跡確認調査報告書III 2005.3 乙貞114号	竪穴住居1棟・焼土塊再調査

調査次数	所在地	調査期間	調査原因	面積	参考文献	調査概要
68次	伊勢町284	平成12年11月21日～平成12年12月4日	確認調査	500㎡	乙貞114号 伊勢遺跡確認調査報告書Ⅱ 2004.3	旧河道・大溝。
69次	伊勢町75	平成13年1月15日～平成13年1月31日迄	確認調査	200㎡	伊勢遺跡確認調査報告書Ⅲ 2005.3	遺物包含層・溝。
70次	伊勢町字南代607	平成13年2月2日～平成13年2月15日迄	個人住宅	150㎡	守文報平成13年度国庫補助	旧河道。
71次	伊勢町字森ヶ下426.427	平成13年5月23日～平成13年7月19日迄	宅地造成 高森ハウス	500㎡ /2,701.95	乙貞117号 現説資料01.7.14	古墳時代前期～奈良の掘立柱建物7棟・溝。
72次	伊勢町259	平成13年7月2日～平成13年7月6日迄	共同住宅	250㎡	伊勢遺跡確認調査報告書Ⅲ 2005.3	旧河道・溝。
73次	伊勢町613 614	平成13年8月20日～平成13年8月29日迄	共同住宅	250㎡	伊勢遺跡確認調査報告書Ⅲ 2005.3	旧河道・柱穴。
74次	阿村町166-1 167	平成13年9月5日～平成13年12月21日迄	確認調査	800㎡	乙貞120号 現説資料01.12.17	大型竪穴住居1棟・棟持柱付大型建物2棟(SB-9・12) 竪穴住居2棟、柱穴・土壇多数。
75次	伊勢町字伊勢里315-1 316-1	平成14年1月7日～平成14年3月29日迄	宅地造成 (株)松屋	700㎡ /2,118㎡	乙貞121号 現説資料02.3.30 伊勢遺跡75次調査報告書 2003.3	五角形住居を含む竪穴住居17棟・溝・柱穴。
76次	伊勢町字南東浦602-1	平成14年2月7日～平成14年2月8日迄	個人住宅 西村不動産	376㎡	伊勢遺跡確認調査報告書Ⅲ 2005.3	掘立柱建物・中世の柱穴。
77次	伊勢町字南代633	平成14年6月18日～平成14年6月24日迄	事務所建築	723㎡	今回報告分	旧河道・溝。
78次	伊勢町字南代606	平成14年7月9日～平成14年7月16日	共同住宅	150㎡	今回報告分	弥生後期の竪穴住居。
79次	阿村町184・185	平成14年7月29日～平成14年8月3日迄	共同住宅	150㎡ /446㎡	乙貞124号 今回報告分	弥生後期の竪穴住居。
80次	阿村町168・170	平成14年9月18日～平成14年10月31日迄	確認調査	500㎡	乙貞127号	弥生後期の竪穴住居・区画溝、柱穴等。
81次	阿村町166-1	平成14年10月1日～平成15年3月15日迄	確認調査	400㎡	乙貞127号 現説資料03.3	弥生後期の大型竪穴建物、独立棟持柱付き建物。
82次	伊勢町字大將軍516-2	平成14年11月11日～平成14年11月14日迄	個人住宅	410㎡	今回報告分	弥生後期の竪穴住居、近世の溝・柱穴等。
83次	伊勢町字森ヶ下	平成14年11月18日～平成14年12月6日迄	宅地造成	200㎡ /1,336㎡	乙貞126号	古墳時代の溝、柱穴等。
84次	伊勢町字井上677	平成15年2月12日～平成15年3月20日迄	共同住宅	390㎡	乙貞127号	弥生後期の溝。
85次	伊勢町字南代648・649	平成15年2月28日	分譲住宅	885㎡	今回報告分	掘乱。
86次	伊勢町字南代615・616	平成15年3月12日～平成15年3月13日迄	共同住宅	666㎡	今回報告分	旧河道・溝・掘乱。
87次	伊勢町字南代624・625	平成15年3月18日～平成15年3月19日迄	共同住宅	835㎡	今回報告分	旧河道
88次	伊勢町字南代624・625	平成15年8月4日～平成15年8月20日迄	共同住宅	200㎡ /836.78㎡		87次調査分の再調査。旧河道・溝等を検出。
89次	伊勢町字南代642・643	平成15年8月25日～平成15年8月28日迄	分譲住宅	200㎡ /1,066.61		掘乱坑が全体に広がる。
90次	伊勢町字二町田324・325	平成15年9月26日～平成15年10月15日迄	共同住宅	300㎡ /835.78㎡	今回報告分	中世の溝・及び柱穴を検出。
91次	伊勢町字南代663-2	平成15年10月9日～平成15年10月15日	個人住宅	90㎡ /231㎡	今回報告分	旧河道・掘乱坑
92次	伊勢町字中東浦62	平成15年11月23日～平成16年2月21日	確認調査	400㎡	乙貞132・133 現説資料04.2	竪穴住居・柱坑・土壇・中世の掘立柱建物。
93次	伊勢町字伊勢里320-3	平成16年2月26日～平成16年3月1日	個人住宅	101.27㎡ /465㎡	乙貞134号 平成15年度国庫補助対象遺跡発掘報告書 2005.3	方形周溝墓と見られる溝。
94次	伊勢町字南代608	平成16年5月26日～平成16年5月31日	共同住宅	427.2㎡		掘乱坑。
95次	阿村町字下大洲168・170	平成16年10月～平成16年11月	宅地造成	600㎡	乙貞136号 現説資料04.11.6	大溝・区画溝・竪穴住居



挿図 2 伊勢遺跡全体図

86次

第2章 伊勢遺跡の調査成果

第1節 第77次調査の概要

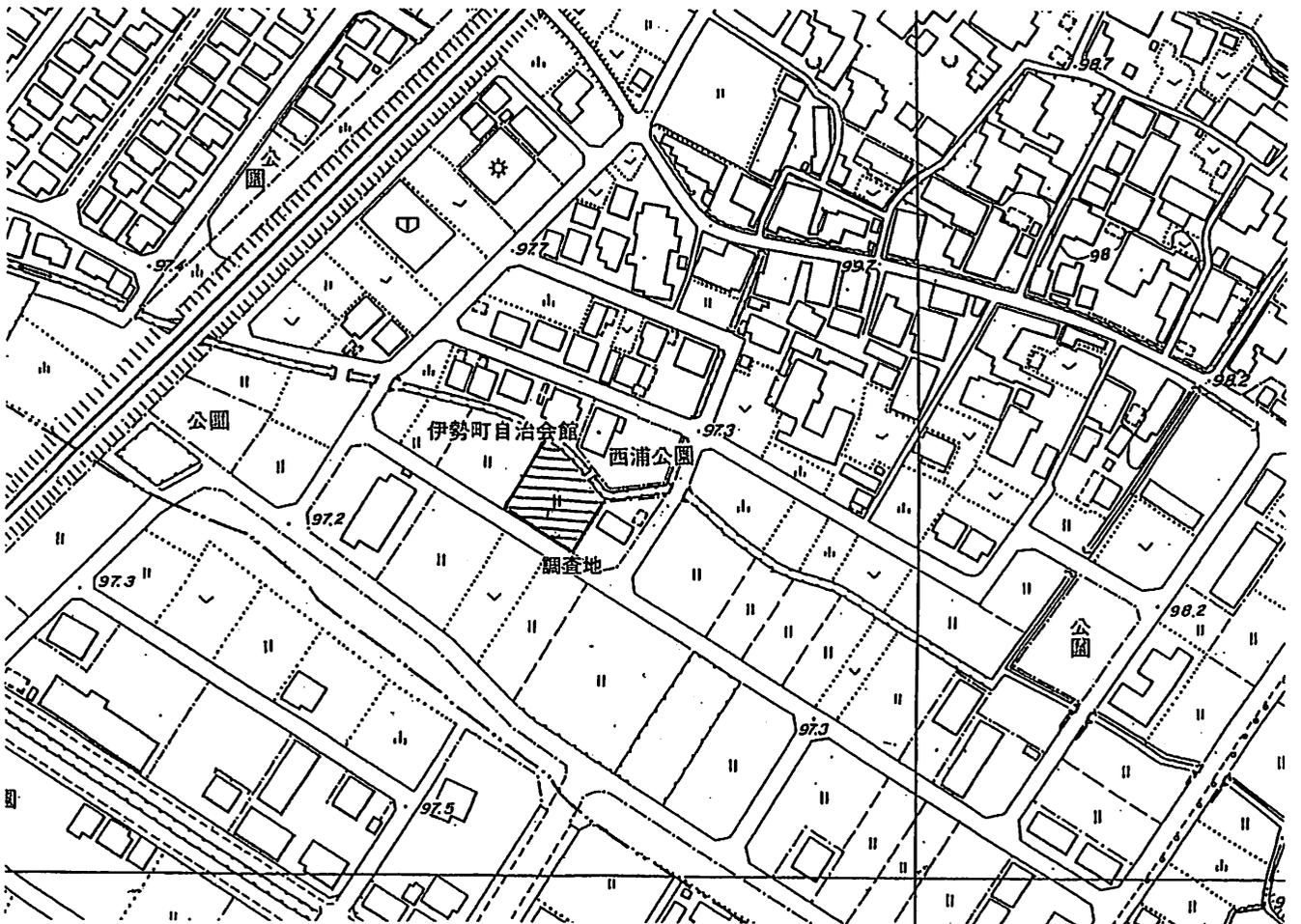
1 調査の経緯と経過

平成14年5月、伊勢町在住の竹村昇氏より伊勢町字南代633番地の水田地について、事務所建築に伴い発掘届が提出された。開発地は伊勢遺跡の範囲内にあたり、事前に確認調査の協力を依頼した。構造物の基礎は約60cmで造成土内にとどまり、遺構面に達しないことを確認した。現地調査は平成14年6月18日に開始し同6月24日に終了した。調査によって、中央部に攪乱跡が見られたほか、中世の溝が複数重なりあっていることが確認された。

2 検出した遺構

耕作土・床土直下の黄色シルト上面において遺構検出を行った。遺構検出面は標高95.9mであった。調査の結果、トレンチ中央部において直径7m程の攪乱土坑を検出した。調査区北西側にさらに広がる様子が窺われた。伊勢町字南代の区画整理内にはこのような攪乱土坑が集中する地点が多くみられるが、昭和初期にレンガ工場操業時の土取り跡と見られる。深い場合、3m以上にわたり掘削されており、垂直に縦坑が掘られているものが多い。弥生時代から中世の遺構検出面の地山である黄色シルトがレンガ素材として適していたと思われる。本例もそのような縦坑と考えられる。

攪乱土坑に切られて、調査区中央で東西方向に伸びる旧河道状の落ち込みを検出した。東西方向に伸びており、幅約15m、深さ約80cmを測る。表面には明灰黄色砂土の堆積が見られ、1つの旧河道状の遺構と



挿図3 第77次調査位置図

見られたが、一部を断ち割り調査を行った結果、4条以上の溝が重複していることが判明した。

SD-1は調査区南西側でその一部を検出した。断面観察の結果、幅約3m、深さ約50cmで暗青灰色シルトの堆積がみられた。SD-2に切られているが、埋土からみてもやや新しい段階（中世）の溝とみられる。

SD-2はSD-1を切っており、幅約1.5m、深さ約40cmを測る。黄灰色砂土が上層に、青灰色粘質土が下層に堆積していた。

SD-3は幅2.4m、深さ30cmを測る。暗青灰色粘質土の堆積がみられ、SD-4を切っていた。

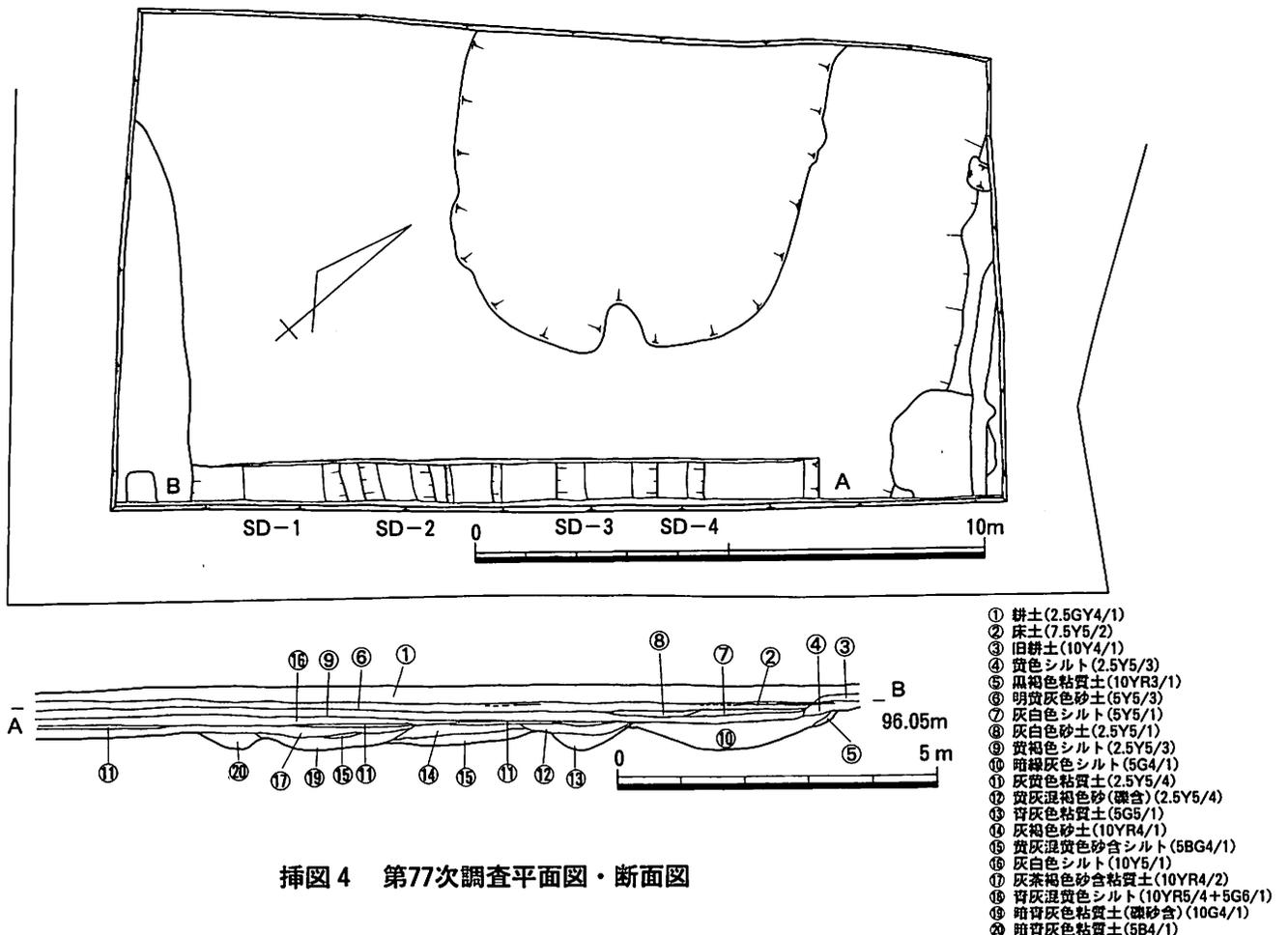
SD-4はSD-3に切られており、規模は不明であるが、幅80cm以上、深さ20cmほどで小規模な溝である。

これ以外にもSD-2とSD-3の間にも先行する溝があったとみられるが、規模等は不明である。旧河道状の落ち込みの北東肩にも直径3m程の攪乱坑がみられ、それを切って近・現代の耕作痕が検出された。

3 調査成果のまとめ

隣接地の調査（第28次調査）によって、東西方向に流れる多数の溝の存在が知られていた。これらの溝には奈良時代から鎌倉時代の遺物が出土しており、古代から中世の溝と考えてよい。現在の井上川に沿って、地形的にも低くなっており、それに並行して多数の溝が走っていたことがわかった。隣接する伊勢町自治会館でも旧河道が検出されており、弥生時代後期から中世にかけて上流部で検出されていた多数の溝や川が、この地域に集束している様子が窺われた。今回の調査でも、弥生時代に遡る遺構は検出されず、希薄な地域であったとみてよい。

今回の調査地点のすぐ南側には弥生時代の川が見つかるが、その肩口からは多数の弥生土器が出土している。しかし、その北側の平坦地には弥生時代の遺構は少なく、居住地から離れた場所で遺物を廃棄していた可能性が高い。



挿図4 第77次調査平面図・断面図

第2節 第78次調査の成果

1 調査の経緯と経過

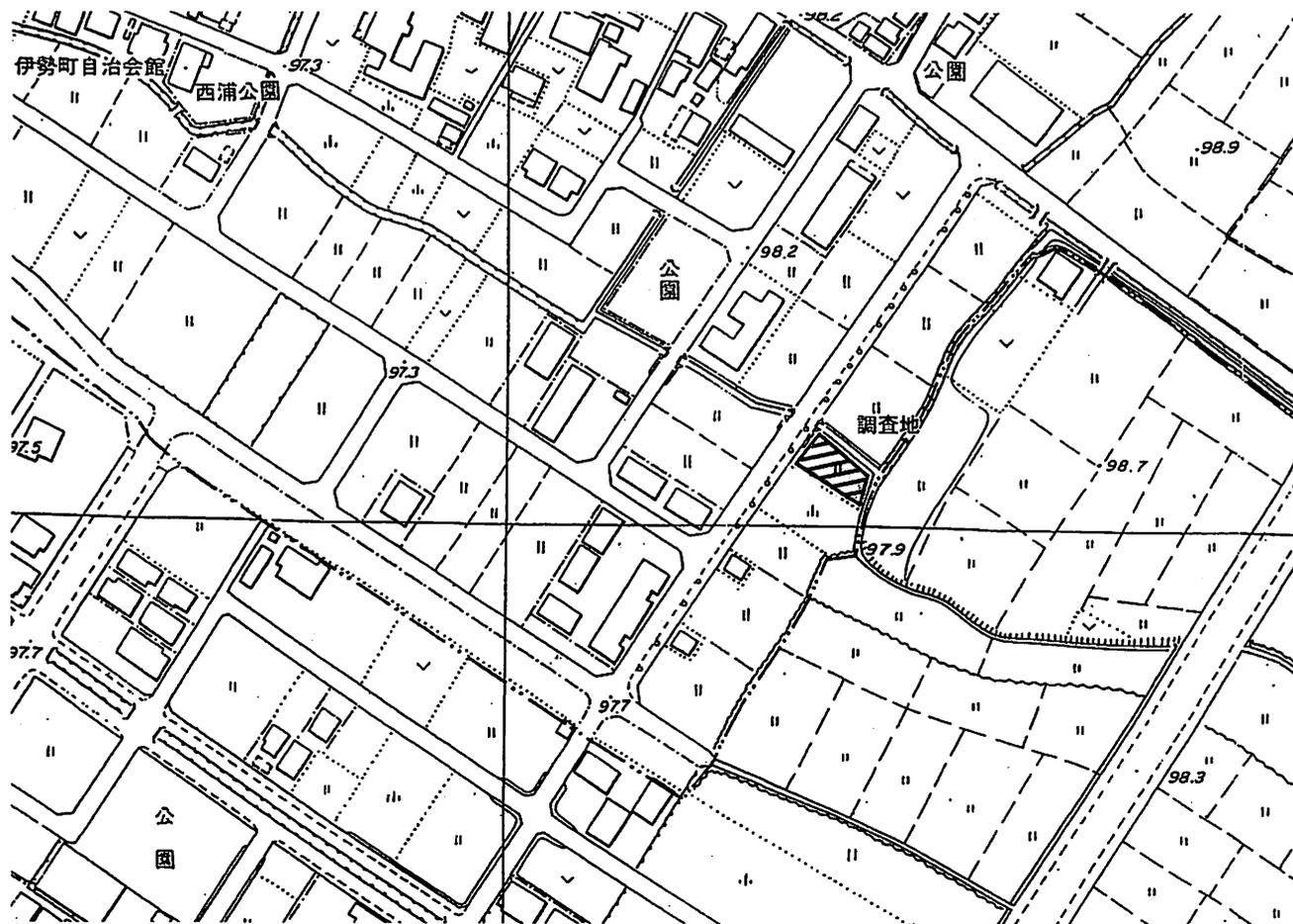
平成14年5月20日、栗東市野尻在住の吉田誠三郎氏より共同住宅開発に伴い発掘届が提出された。開発地は伊勢遺跡の範囲内にあたり、事前に確認調査の協力を依頼した。現地調査は平成14年7月9日から同7月16日までの期間行った。調査の結果、旧河道を検出した。遺構面は道路面より約1.8m下にあり、2階建ての共同住宅の基礎及び表層改良は造成土内にとどまることを確認した。

2 検出した遺構

耕作土から約90cm下の黄色シルト上面で遺構検出を行った。遺構検出面は標高96.4mで、調査区北隅に地山が見られ、これより南東側に落ち込んでいく様子が窺われた。周辺部の調査では、北東から南西方向に向かって旧河道が走っていることが判明しているが、この落ち込みはその一部と考えられる。灰白黄色の細砂が堆積しており、幅10m以上の規模と推定される。この旧河道を切って、南北方向に流れる溝SD-1を検出した。青灰色粘土（褐色混り）の堆積がみられた。最大幅4mで、南隅では1mと狭くなっており、人工的な溝ではなく洪水等による自然流路と見られる。

3 調査成果のまとめ

既往調査では、旧栗太郎地割りの坪境に沿って、幅15m以上の旧河道が150m以上にわたり検出されており、今回検出した落ち込みはその延長部にあたると思われる。この旧河道は阿村町下大洲から南西方向に伸びることがわかっており、南代に入ってから規模も大きくなっており、第50次調査成果からも深く抉られていることが推定される。地形的にも阿村町下大洲と南代では1.5m以上の高低差があり、現在のJR栗東駅に向かって、旧河道が幅広く大規模になっていることが判明した。



挿図5 第78次調査位置図

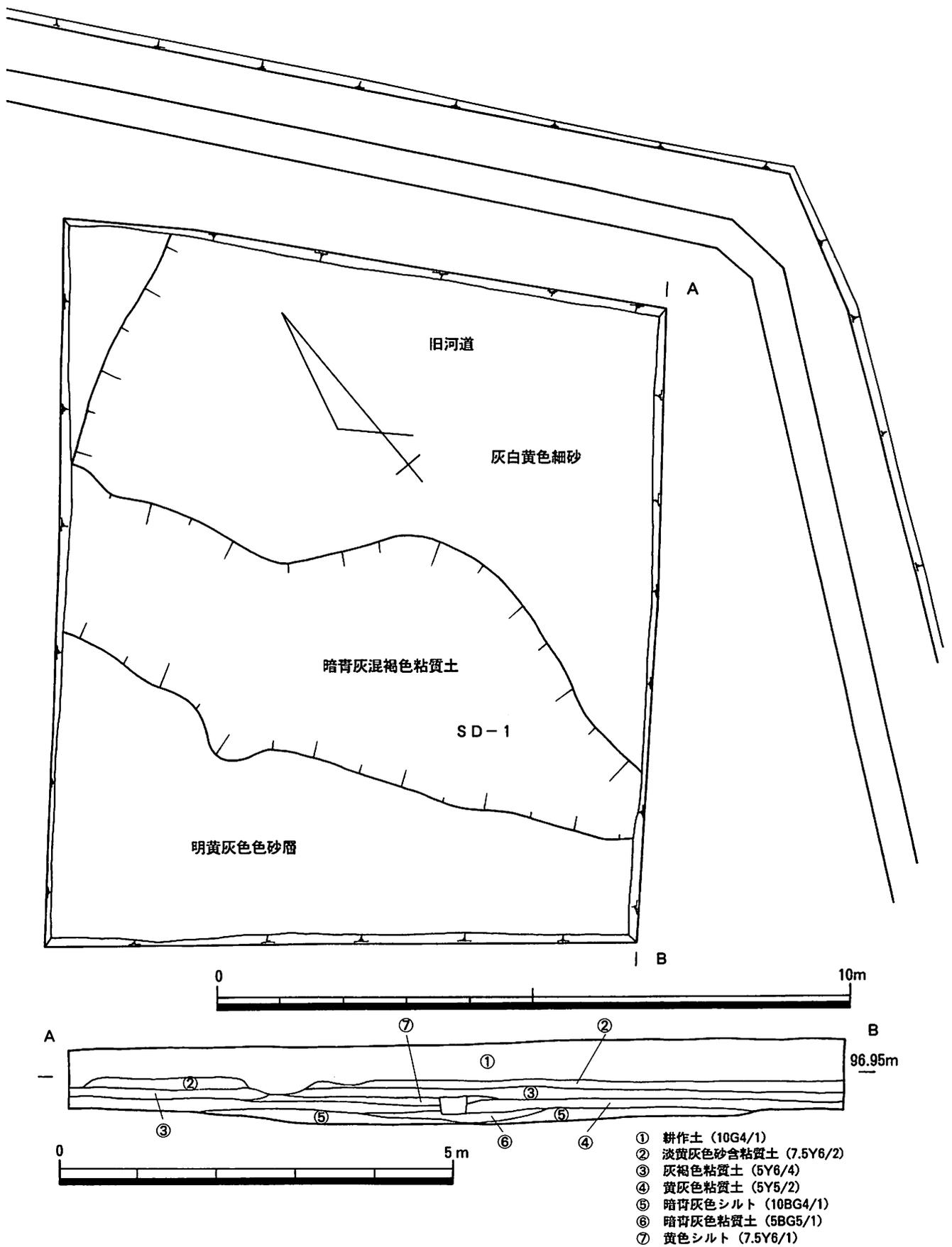


插图6 第78次調査平面図・断面図

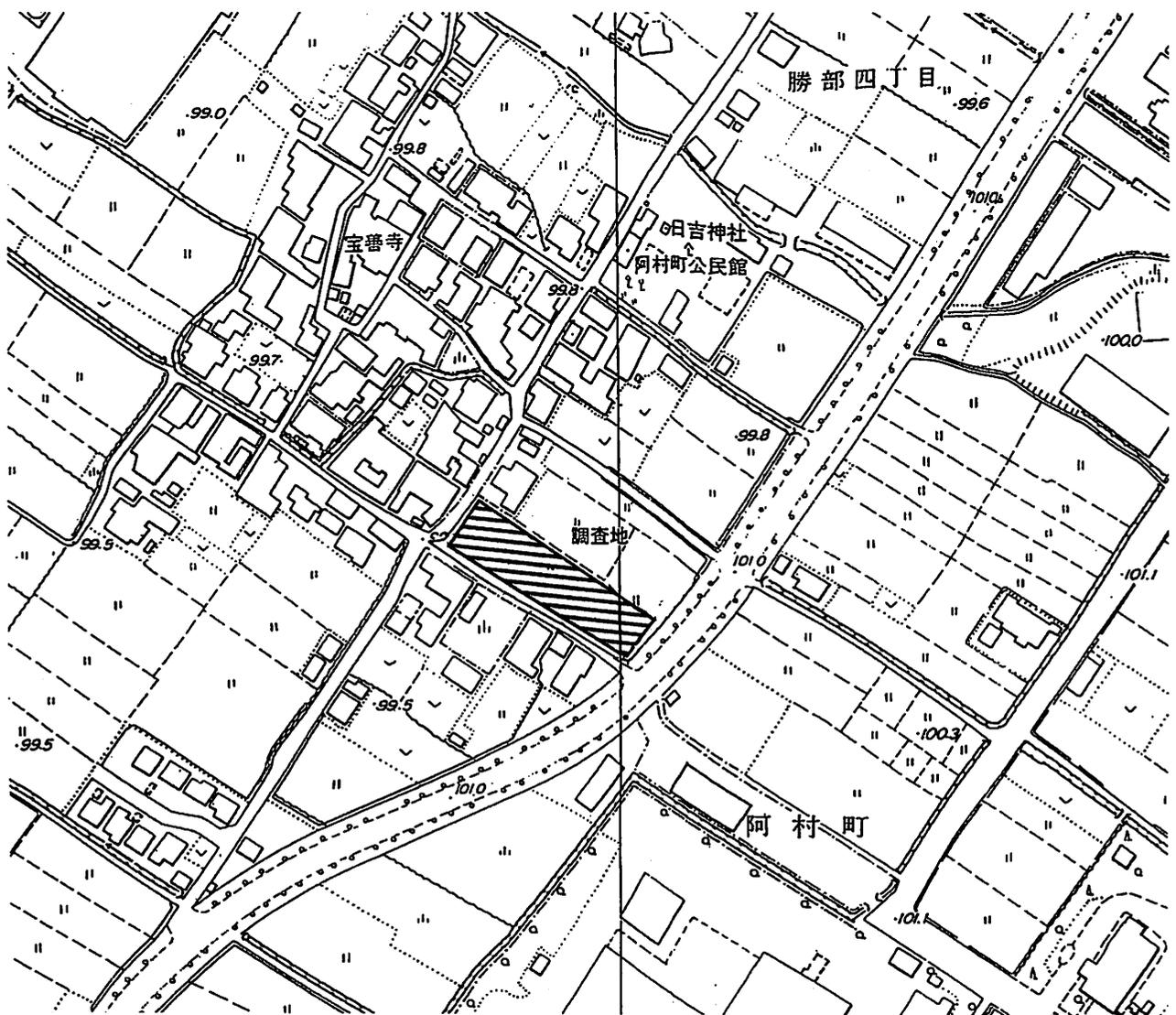
第3節 第79次調査の成果

1 調査の経緯と経過

平成14年5月21日、阿村町在住の竹中昭蔵氏より阿村町184・185番地の水田地で、共同住宅の建築に伴い発掘届が提出された。開発地は大洲遺跡の範囲内にあたり、伊勢遺跡に関連する遺構の存在も想定されることから、平成14年7月に試掘調査を行った。開発地に12カ所のトレンチを設け試掘を行った結果、1カ所より竪穴住居とみられる遺構が検出された。それ以外の地点では地山が広がり遺構を検出することはできなかった。試掘調査の結果に基づき、遺構の性格・広がりを確認するために平成14年7月29日から同8月3日の期間、確認調査を実施した。調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居が1棟検出された。調査結果に基づき、共同住宅建築場所の変更について協議を行い、遺構保存を図った。

2 検出した遺構と出土遺物

試掘調査の結果に基づき、開発地の南東部中央において、耕作土・床土直下の黄色シルト上面で遺構検出を行った。遺構検出面は標高98.9mを測る。調査の結果、試掘で検出した遺構は竪穴住居であることが判明した。竪穴住居は一辺約5.5mを測る方形プランで、赤褐色粘質土の堆積がみられた。一部、掘削調査を行った結果、残存壁高は17cmを測り、北西部分に周壁溝が存在することがわかった。また、北西隅と南東隅において直径約40cmの支柱穴を検出した。深さ約30cmを測る。北東辺の壁際において焼土塊が一部



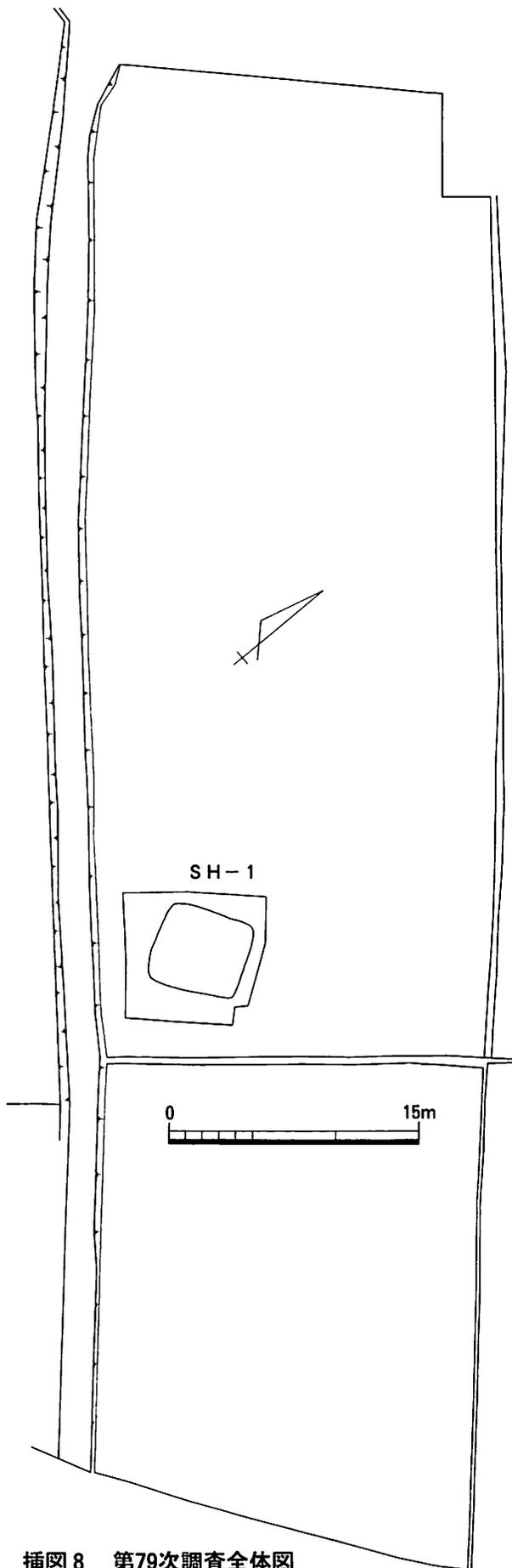
挿図7 第79次調査位置図

検出された。床面上及び周壁溝から弥生土器片（1～5）が出土した。

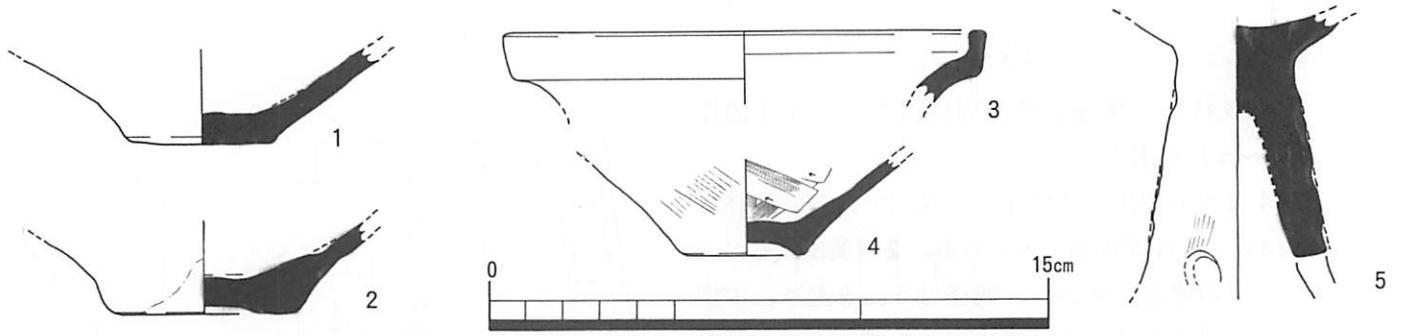
1はやや突出する平底の壺底部である。底径は約4cmで、小型の壺とみられる。2は突出するドーナツ底の壺底部である。底径は5cmを測り、中型の壺と見られる。3は直径14cmを測る小型の受口状口縁甕である。外上方に短く開く第1口縁部から屈曲し上方に立ち上がる。端部は小さな面をもち単純に納められている。4は甕底部で、底径は約3cmを測る。ドーナツ状の上げ底で、近江型の甕と思われる。外面は左上がりの刷毛で調整され、内面は板の小口で削り取るような調整がみられた。胎土からみても、野洲川流域の甕ではないと考えてよい。5は高坏で長い円錐状の脚中部である。3方透しをもつ。摩耗が著しいが外面に刷毛目が残る。これらの土器群の特徴から弥生時代後期中葉～後葉の年代が与えられる。出土土器からみて伊勢遺跡の盛行期の竪穴住居とみてよい。

東西方向に細長く舌状に伸びる微高地上に伊勢遺跡は形成されているが、その東端部は南北方向に伸びる幅7mの大溝によって区画されている。今回の調査地点はその大溝から東へ約100m離れた地点にあたっている。試掘調査の成果でも殆ど遺構がないことから、空閑地がひろがっていたことが予想される。しかし、今回の調査で、伊勢遺跡の盛行期と同時代に住居が存在したことがわかった。今回の地点は伊勢遺跡が広がる丘陵の尾根上にあたることから、尾根沿いに伊勢遺跡から東方へ抜ける道沿いに何らかの役割をもつ竪穴住居が造営され、機能していた事が想定される。

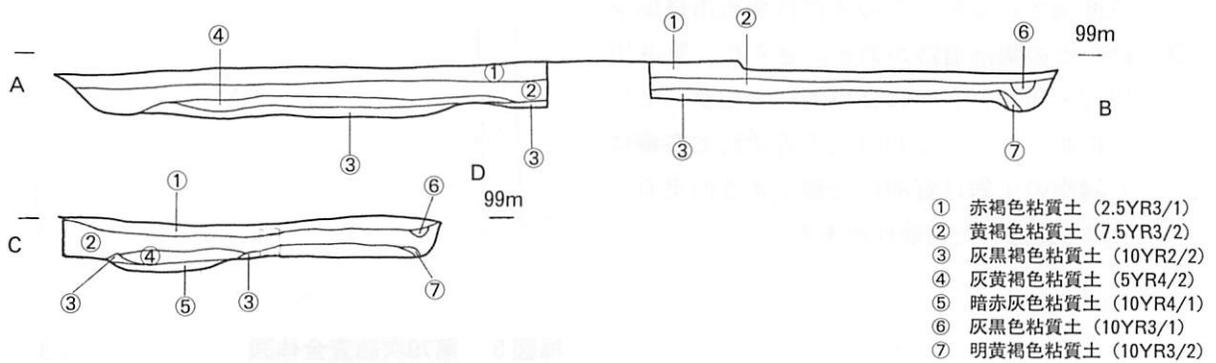
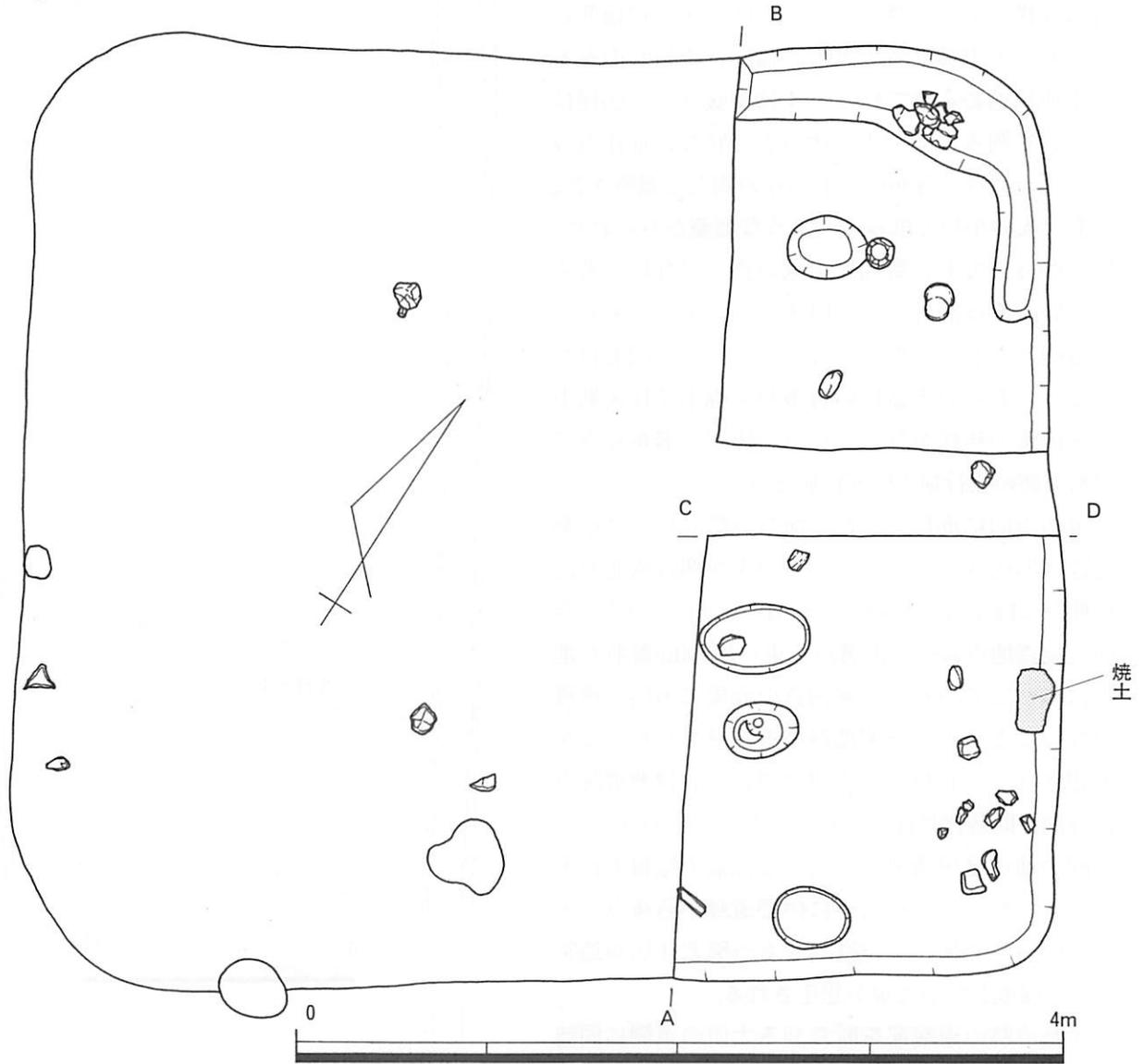
伊勢遺跡の東端部を断ち割る大溝の東側に同時代の竪穴住居が検出されたことで、道が延びていたことが推測されるが、その先には栗東市蜂屋や高野遺跡などの集落遺跡がある。さらに、野洲川を遡り伊賀・伊勢、さらには東海へと繋がっていたことが推測される。愛知県八王寺遺跡で多量に出土した湖南の土器は野洲川を遡上する旧東海道ルートで持ち運ばれた可能性がある。



挿図8 第79次調査全体図



挿図9 第79次調査出土遺物



- ① 赤褐色粘質土 (2.5YR3/1)
- ② 黄褐色粘質土 (7.5YR3/2)
- ③ 灰黒褐色粘質土 (10YR2/2)
- ④ 灰黄褐色粘質土 (5YR4/2)
- ⑤ 暗赤灰色粘質土 (10YR4/1)
- ⑥ 灰黒色粘質土 (10YR3/1)
- ⑦ 明黄褐色粘質土 (10YR3/2)

挿図10 第79次調査 SH-1平面図・断面図

第4節 第82次調査の成果

1 調査に至る経過

平成14年10月2日、大津市在住の山際康子氏より伊勢町字大將軍516-2の水田地で、住宅造成工事に伴い発掘届が提出された。開発地は伊勢遺跡の西端にあたり、確認調査の実施協力を依頼した。現地は道路面より約2m下がっており、造成土をかなり搬入することから遺構の保存が図れるものと推測された。現地調査は平面検出調査で、平成14年11月11日に開始し、同11月14日に終了した土置き場の確保のため、反転し調査を進めた。

2 検出した遺構

耕作土・床土直下の黄色シルト上面で遺構検出を行った。遺構検出の結果、北西隅において黒褐色粘質土が堆積する遺構SX-1を検出した。遺構検出面には全体に耕作痕が南北方向に見られた。耕作痕には灰白色砂土が堆積していた。耕作痕のほか、灰黄色砂土が堆積した不定形の落ち込みがみられたが、近世以降の攪乱とみられる。茶褐色粘質土の埋土が堆積した柱穴が若干検出されたが、建物を復元するには至らなかった。SX-1は方形プランで一辺10mを越え、竪穴住居の可能性も想定されたが、今回の調査地点から北西側に地形的に落ち込んでいくことから、包含層の一部であると考えられる。一部肩口を掘削したところ、緩やかに落ち込むことが判明しており、包含層の自然堆積である蓋然性が高い。肩口には焼土塊や炭粒子がみられたが、遺物等は殆ど含まれていなかった。



挿図11 第82次調査位置図

3 調査成果のまとめ

伊勢遺跡は東西方向の舌状の微高地上に広がる遺跡であるが、JR琵琶湖線周辺から北西に向かって急激に落ちていく。北西側の低地部では弥生後期の遺構は極めて稀である。JR琵琶湖線より南東側では五角形住居を含む竪穴住居が多数営まれており、居住空間が広がっていたことがわかっている。今回の調査地点は元来地形的に低く、丘陵部の落ち際とみられ、遺構の希薄な地点と考えてよい。一部には中世の溝と思われる遺構も存在するが、掘立柱建物等の柱穴は見られず、中世においても居住地として利用されていないことがわかった。



第5節 第84次調査の成果

1 調査にいたる経過

伊勢町字井上677番地において、中村正和氏が計画した共同住宅建築に先立ち、埋蔵文化財発掘届の提出を受けて発掘調査を実施した。さらに、西側の用地を共同住宅居住者用駐車場として造成工事が計画されたことから、遺構の状況を把握するため、確認調査を工事に先立って実施した。

現地調査は、平成15年2月12日から平成15年3月20日までの期間、実施した。

2 検出した遺構

造成土約50cmを取り除いた深さから、黄褐色粘土層をベースとして、掘立柱建物(SB)、土坑(SK)、溝(SD)、ピットを検出した。

SB-1 調査区の中央で検出した4間×3間以上の規模をもった掘立柱建物。内側にも柱穴を配置した総柱建物と考えられ、調査区の南西部側外にさらに広がっている。柱穴の間隔は2mを測り、大きさは直径0.2m~0.5mの方形を呈する。建物の主軸方位は北から東へ約25°振っている。遺物は柱穴上面で出土した土師器から、平安時代以降と考えられる。

SB-2 SB-1と方位を同じくして検出した2間×2間以上の建物跡。柱穴の大きさは0.1m~0.3mでSB-1に比べて小さい。

SB-3 SB-1の東側に位置する1間四方の建物跡。柱穴間隔は東西方向約2.4m、南北方向で約2.6mになっている。大きさは0.15m~0.35mで埋土は他の掘立柱建物と同じであった。方位は先の2棟に比べ、若干東側に振っている。



挿図13 第84次調査位置図

SK-1～SK-3 SB-3の西側で3基検出した。いずれも灰茶色粘土層である。

SD-1 南壁から北に向かって伸びる溝で、西側へ細い2条の溝がつく。約2.4mの幅をもつ。一部掘削した結果では、0.6m程度の深さを測り、上層面で1の土師器の皿が出土し、真ん中の深さから弥生時代後期の高杯2が出土した。

SD-2 SD-1に重なって同じように走る溝。幅は約3mを測る。

SD-3 東から西側に向かって走り、SD-1に切られて直交する溝。0.4m～1mの幅を持った溝。

SD-4 調査区の北側壁に沿って、片側を調査区外のまま走る。

SD-5 南壁より北に向かって走り、SD-3の手前で止まる。0.2m～0.8mの幅を測り、SB-2の柱穴により切られる。

SD-6 東壁より西に向かって伸びる溝。

SD-7 やはり東壁より西に向かって伸びる溝。

SD-8 これまでの調査の結果から、区画溝としてとらえられている溝で、共同住宅地調査内で北向きの溝がL字に屈折したのち、西に向けて走る。

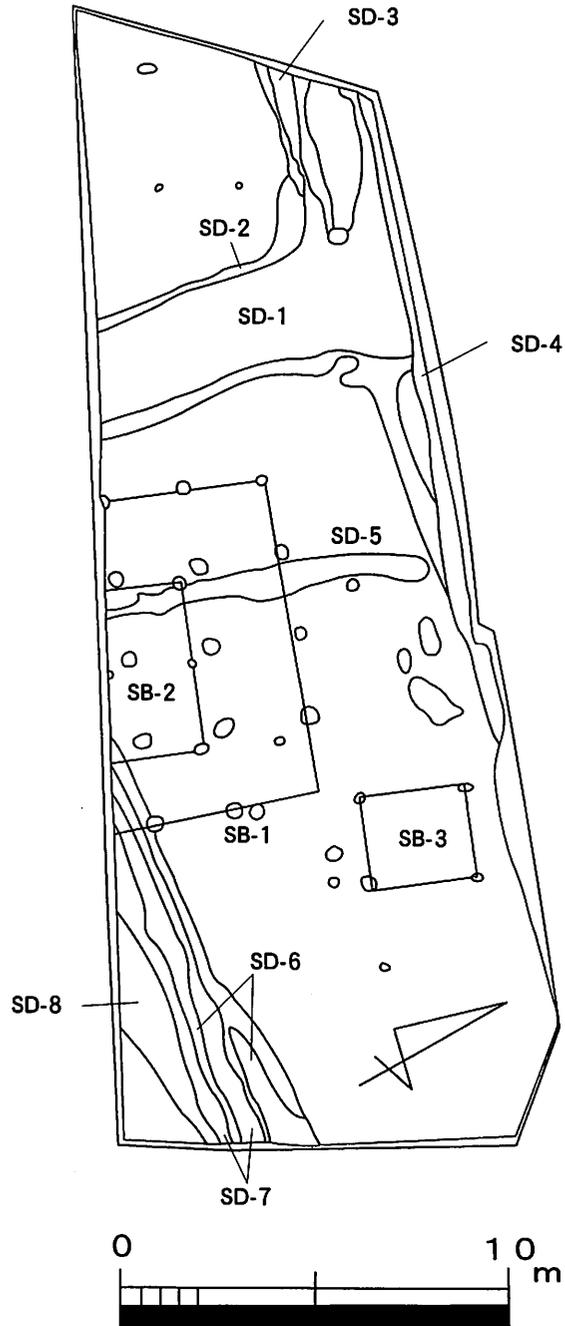
3 調査成果のまとめ

SD-1から弥生時代後期の土器が出土したが、遺構の照合からこの溝は隣地の第28次調査で検出された古墳時代前期の方形周溝墓(9号墓)に続く溝とわかった。

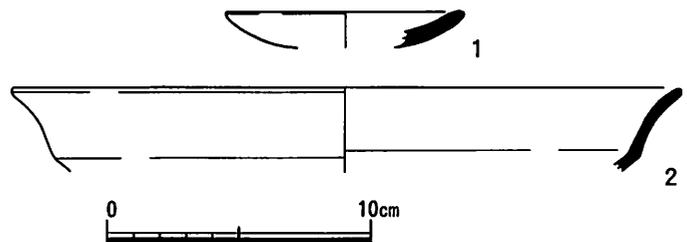
また、28次調査の区画溝が共同住宅地調査と今回の調査で、接続した溝であることが確認された。

この他では、掘立柱建物や土器から、平安時代以降の集落の存在も確認された。

(畑本)



挿図14 第84次調査全体図



挿図15 第84次調査出土遺物

第6節 第85次調査の成果

1 調査に至る経緯及び経過

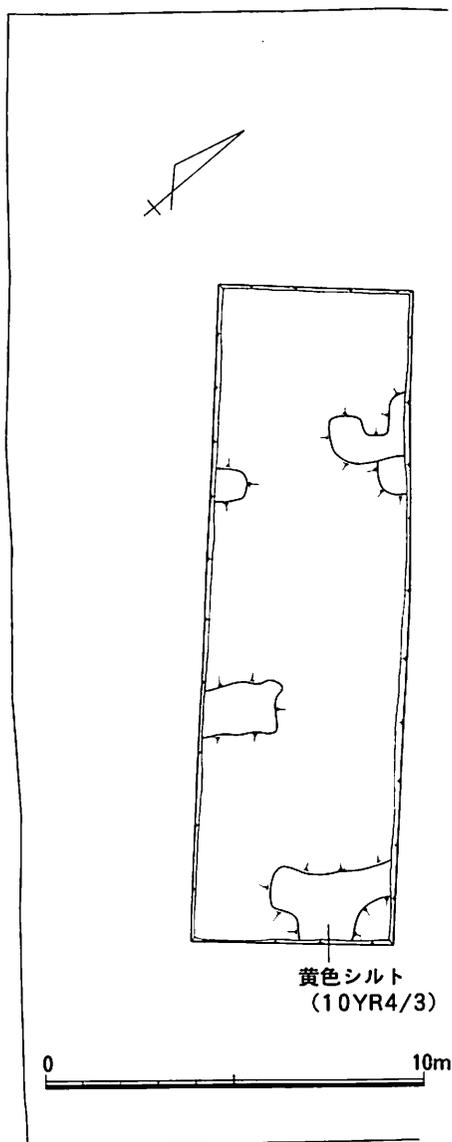
平成14年12月17日、伊勢町在住の北田俊夫氏より、伊勢町648・649番地の水田地において共同住宅建築に伴い発掘届が提出された。この場所は伊勢遺跡の範囲にあたり、確認調査の実施協力を依頼した。しかし、周辺部の調査で、レンガ工場操業時の土取りが行われていることが予想され、遺構の有無を確認するため調査を行った。現地調査は平成15年2月28日に実施した。

2 検出した遺構

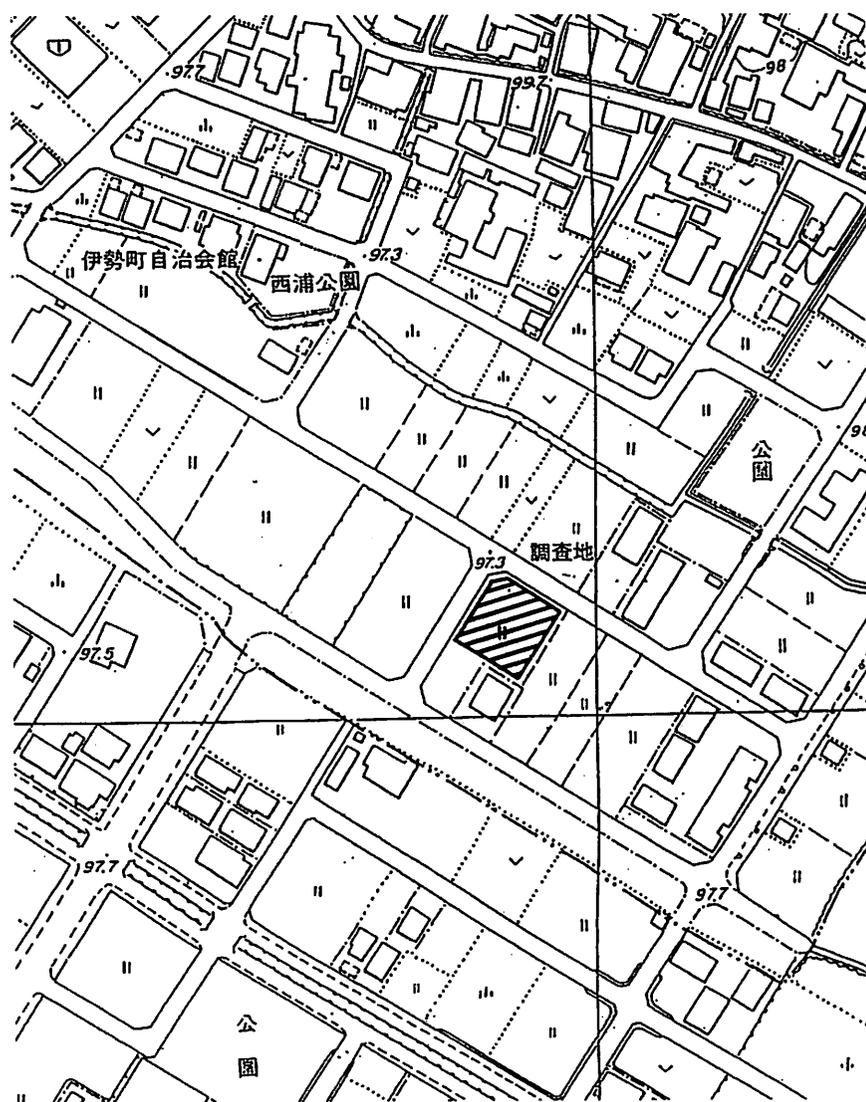
耕作土・床土、灰黄色砂含粘質土を除去し、黄色シルト上面で遺構検出を行った。現地表より70cm下あたり、検出面は標高97mを測る。調査の結果、全体に攪乱されており所々に地山が残存する状態であることが判明した。遺構は全く見られなかった。

3 調査成果のまとめ

レンガ材の土取りとみられる攪乱が全体に広がり、遺構等は残存していなかった。島状に残る地山にも遺構は見られず、元来遺構密度が希薄であったとみられる。南代区画整理地内でも現井上川より南側は遺構密度が希薄で、土取りによる攪乱が著しいことが裏付けられた。



挿図17 第85次調査平面図



挿図16 第85次調査位置図

第7節 第86次調査の成果

1 調査に至る経過

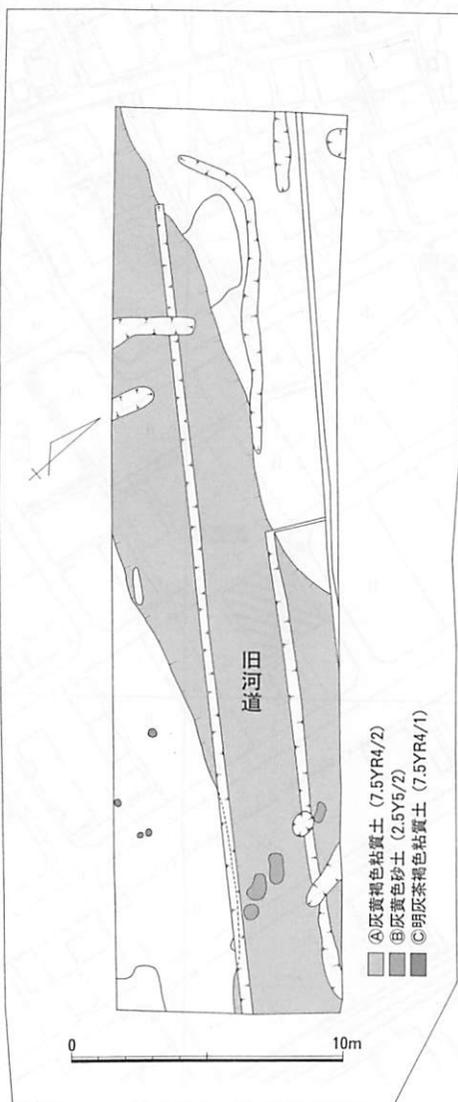
平成14年12月17日、守山市下之郷町の株式会社 北川建設（代表取締役 北川恭司）より伊勢町字南代615、616番地の水田地において分譲住宅造成工事に伴い発掘届が提出された。開発地は伊勢遺跡の範囲内にあり、周辺部の調査成果から中世の川跡の存在が予想されたため、確認調査を実施した。現地調査は平成15年3月12日に開始し、同3月13日に終了した。

2 検出された遺構

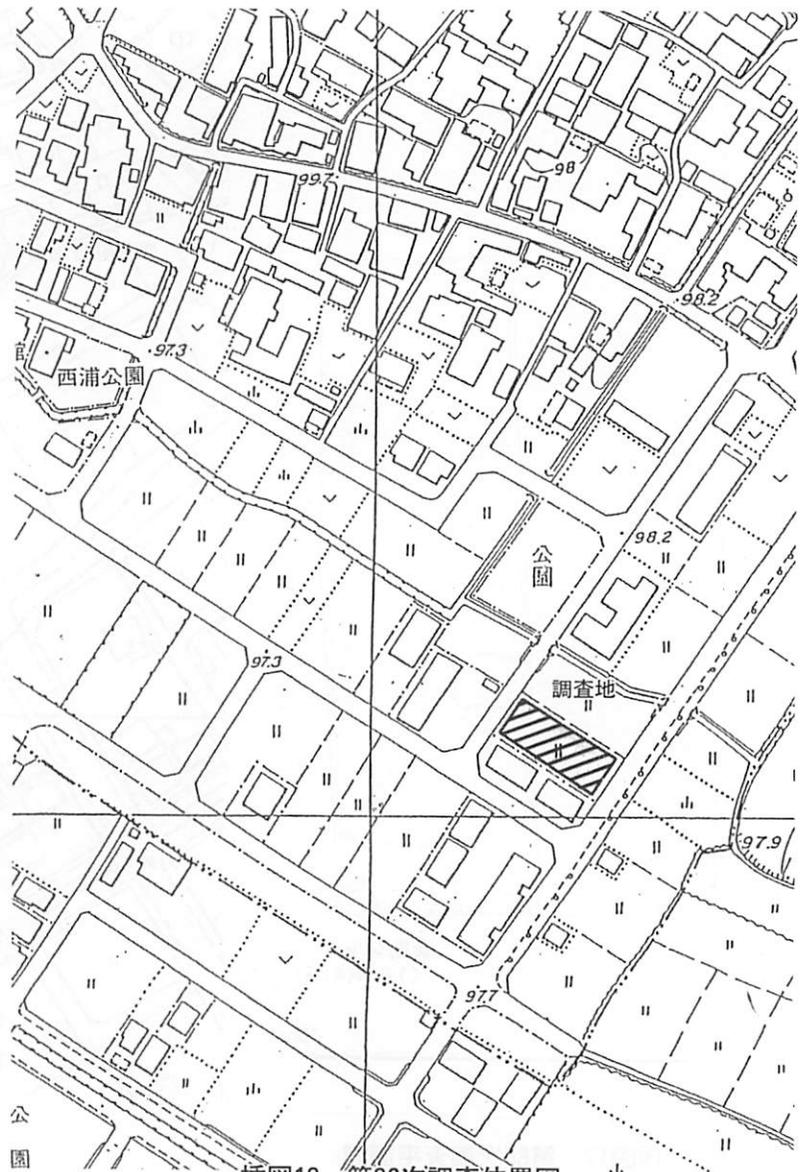
耕作土・床土直下の黄色シルト上面において遺構検出を行った。旧河道と若干の柱穴を検出した。旧河道は幅6～7mあり、灰黄褐色粘質土の堆積がみられた。87次調査地点の上流部にあたり、同一遺構の可能性はある。この遺構を切って暗渠排水跡や攪乱がみられた。南代の区画整理内では暗渠排水がかなり埋設されているが、井上川が度々氾濫して水田が冠水し、排水のため戦後埋設したことが伝えられている。旧河道の南側では径20～30cm程の柱穴が4個検出された。明灰茶褐色粘質土の堆積がみられ、埋土から古代以前の遺構と推測されるが、建物を復元するには至らなかった。

3 調査成果のまとめ

旧河道は下流側の87次調査地点の調査成果からみて、井上川に沿って流れていた旧河道とみられる。



挿図19 第86次調査平面図



挿図18 第86次調査位置図

第8節 第87次調査の成果

1 調査に至る経過

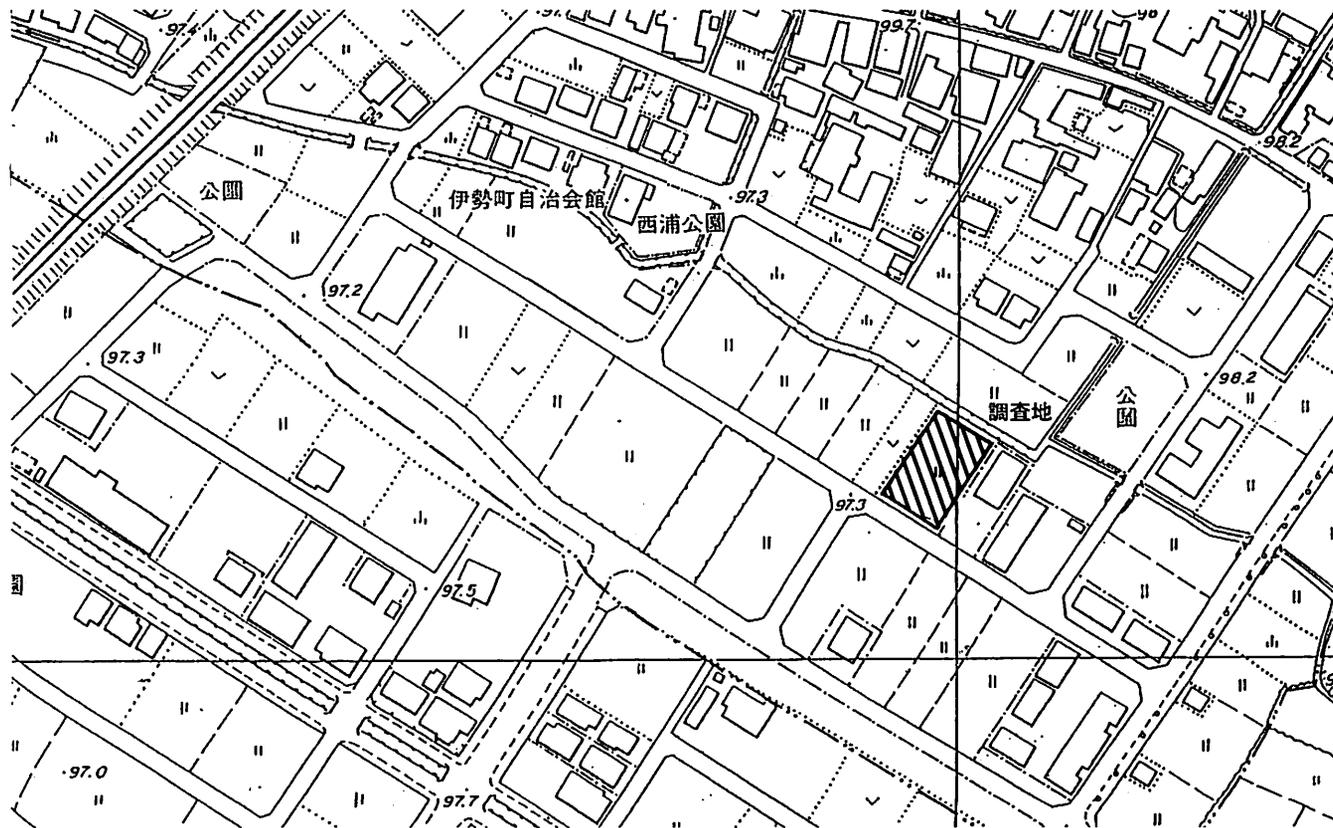
平成14年12月17日、下之郷町の株式会社北川建設（代表取締役 北川恭司）より、伊勢町字南代624・625番地の水田地において共同住宅建設に伴い発掘届が提出された。この地点は中世の旧河道等の存在が予想され、事前に確認調査の実施協力を依頼した。現地調査は平成15年3月18日から同19日の期間実施した。3階建ての建築物でパイルを桁行2列に打つ計画であり、遺構の存在が確認された場合、原因者負担により再度調査することを伝えた。調査の結果、旧河道が検出されたことから原因者負担により旧河道部分について平成15年度に調査を行った。

2 検出した遺構

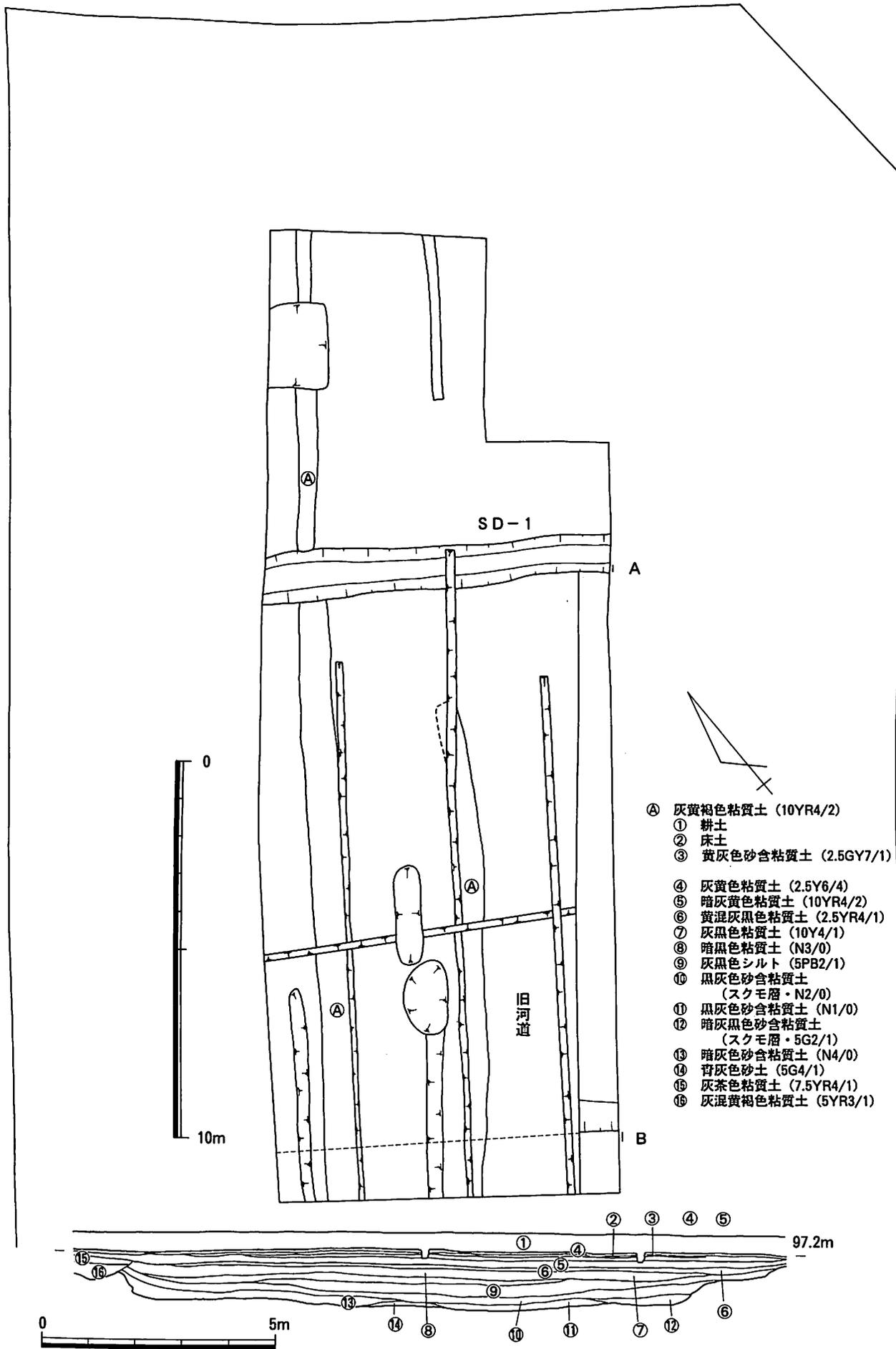
耕作土・床土、灰黄色粘質土を除去し、黄色シルト上面において遺構検出を行った。平均遺構検出面は標高96.9mである。遺構検出を行った結果、幅15mを測る旧河道を検出した。86次地点で検出した旧河道と同一遺構である可能性が高い。旧河道を切って、近世とみられる耕作痕を検出したほか、暗渠排水跡がみられた。旧河道の北東肩部で、幅約1m深さ約20cmを測る溝SD-1を検出した。旧河道を切っており、灰混黄褐色粘質土の堆積が見られた。旧河道は幅約15m、深さ1.2mを測り、断面形は逆台形を呈す。上層には灰黄色粘質土の堆積がみられるが、中・下層には砂を含む黒灰色粘土及び黒灰色粘質土が堆積していた。北西側隣接地の調査(72次)では下層で古式土師器片が出土しており、古墳時代前期に遡る川跡と見られる。

3 調査成果のまとめ

87次調査で検出された旧河道の下流にあたと推定されるが、86次地点では幅6～7m程であるが下流側では15mとひろがっていることがわかった。今回の調査地点でも弥生時代に遡る遺構は検出されず、遺構密度が希薄であったことが窺われる。



挿図20 第87次調査位置図



挿図21 第87次調査平面図・断面図

第9節 第90次調査の成果

1 調査にいたる経過

平成15年7月23日、伊勢町在住の山外勝氏より、伊勢町二町田324・325番地の水田地において共同住宅建設に伴い、発掘届が提出された。開発地は伊勢遺跡の範囲内にあたり、周辺部からは五角形住居等が検出されていることから、確認調査の実施協力を依頼した。重要な遺構が検出される可能性もあり、設計業者には開発によって遺構が傷まないように土盛りをし設計変更を検討するよう指示した。鉄骨2階建てであり、地盤調査の結果、通常基礎で遺構面が傷まないことを確認し、工事の際、立会を行った。現地調査は平成15年9月26日に開始し、同10月15日に終了した。

2 検出した遺構

耕作土・床土、黒褐色粘質土を除去し、黄色シルト上面において遺構検出を行った。調査の結果、柱穴、溝等を検出した。柱穴は灰黄色砂土が堆積しており、中世の遺構とみられるが、建物を復元するには至らなかった。溝は東西方向に伸びており、調査地の南側に集中して検出された。

S D - 1 は幅約80cm、深さ20cmを測り、浅い椀状の断面形を呈する。上層には灰白色砂土、下層には暗灰色粘質土が堆積していた。S D - 2 は幅1～1.2m、深さ約10cmを測る。浅い溝で、灰黄色砂土が堆積しており、

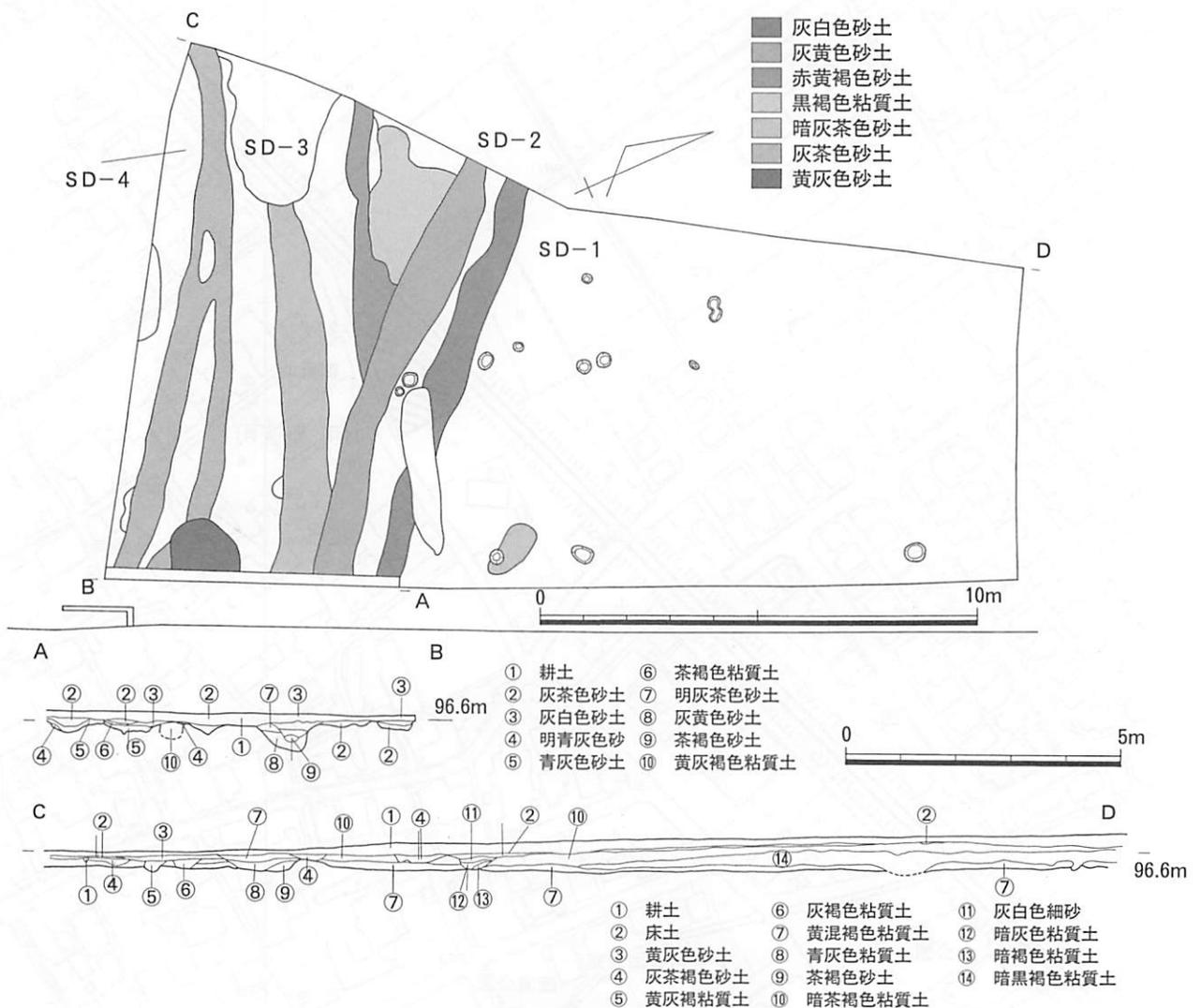


挿図22 第90次調査位置図

南東隅でSD-3を切っていた。SD-3は幅約1.2m、深さ15cmを測り、断面形は浅い逆三角形を呈する。SD-1と同じく、灰白色砂土の堆積が見られた。SD-4は調査区南西隅で検出された。東側では2本に分かれていたものが、西側で合流する。幅0.7~1m、深さ10cm程で、灰茶褐色砂土が堆積していた。

3 調査成果のまとめ

調査の結果、調査区の南西側から北東側にかけて、地形的に低くなっていることがわかった。東西方向に伸びる溝は地形的に高い部分に掘削されていたことがわかる。溝が検出された地点は東西方向に伸びる丘陵先端の北側にあたり、地形的に北側に向かって落ちている。中世から近世の溝と考えられるが、農業用水として機能していたものと考えられる。



挿図23 第90次調査平面図・断面図

第10節 第91次調査の成果

1 調査に至る経過

平成15年10月1日、勝部4丁目在住の船津潤一氏より、伊勢町字南代663-2番地において個人住宅建築に伴い発掘届が提出された。この場所は伊勢遺跡の範囲内にあたり、周辺部の調査から伊勢遺跡の南西部を東西に流れる旧河道が大きく南西部へ屈曲する地点で、護岸遺構の存在が予想されることから確認調査を実施協力を依頼した。現地調査は平成15年10月9日に開始し、同10月15日に終了した。

2 検出した遺構

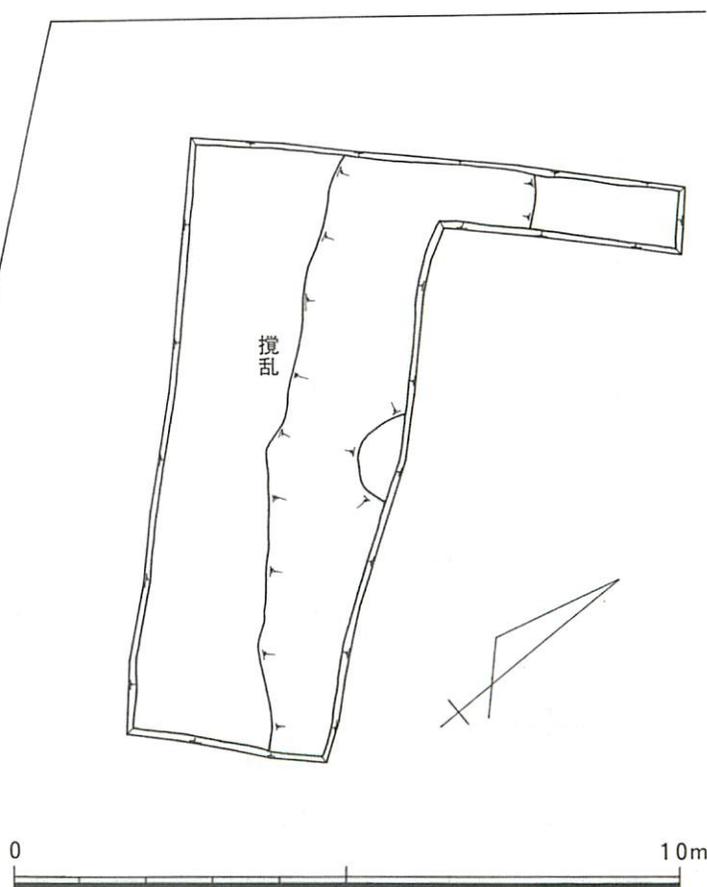
耕作土、区画整理時の造成土を除去し、灰黄褐色シルトを除去し黄色シルト上面において遺構検出を行った。遺構検出面は標高96mで、かなり低くなっている。調査の結果、中央で幅2.5m程で带状に攪乱されている事がわかった。レンガ材の土取り跡と見られる。攪乱以外、遺構は検出されなかった。

3 調査成果のまとめ

弥生時代の川が予想されたが、今回の地点では検出されなかった。ただ、地形的にかなり低くなっていることから、同地点の南側間際に旧河道の肩が存在することが推定された。遺構密度は極めて低いことがわかる。



挿図24 第91次調査位置図



挿図25 第91次調査平面図

第3章 まとめ —伊勢遺跡の南側の空間利用と導水施設—

伊勢遺跡は東西方向に舌状に伸びる丘陵上に広がる遺跡である。その南側には幅約30mの旧河道が東から西へ蛇行しながら流れている。本調査報告書に所収した確認調査の大半は、この河川沿いの低地部にあたるが、弥生時代後期の遺構は極めて少なく、中世の遺構も少ない。伊勢遺跡中心部に大型建物が造営された時代、南側低地部はどのように利用されていたのであろうか。また、大型建物群が集中するエリアと空地との間に明確な区画施設が存在するのであろうか。本稿では東西方向に伸びるSD-1がその空間利用において重要な役割を果たしていると考え、その機能について若干の考察を加える。

1 流路SD-1の性格

平成9年11月、個人住宅建築に伴い南代区画整理内で45次調査を実施した際、幅3m以上、深さ70cmを測る溝を検出した。この溝は砂・砂礫が交互に堆積しており、勢いよく水が流れていたことが想定された。溝は東西方向に伸びており、T字状に北側へ屈曲する小溝(SX-1)が付設されていた。SD-1には南北方向に杭が打たれ、北方へ水を導く施設であったことが窺われた。溝の延長部は中世の溝や屋敷地によって削平され詳細は不明であった。小溝底から出土した土器から弥生後期中～後葉に埋没したと考えられる。その中からは小型壺が出土しているが、口縁部を打ち欠き体部下半には穿孔が施され、祭祀に用いた遺物と考えられた⁽¹⁾。

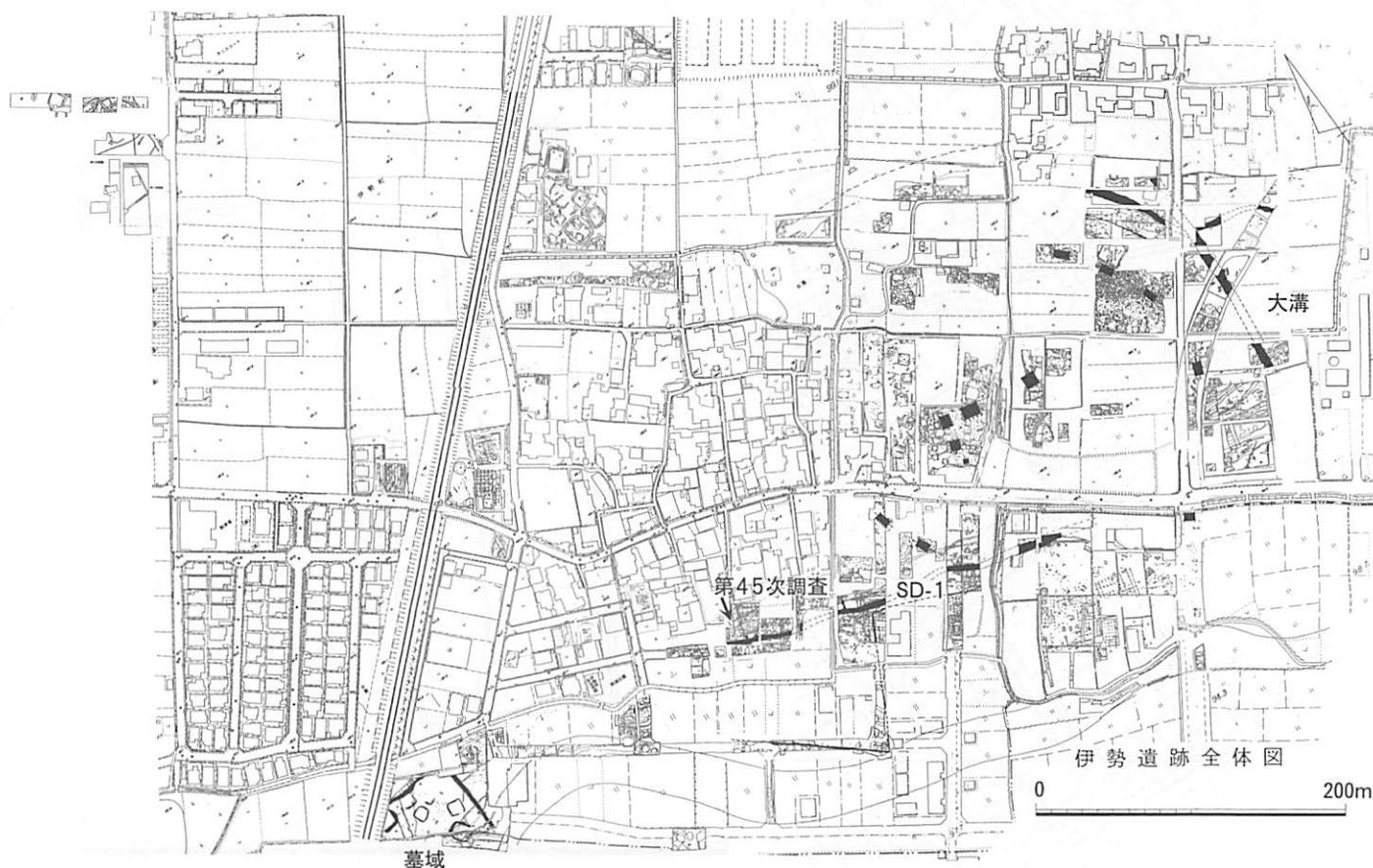
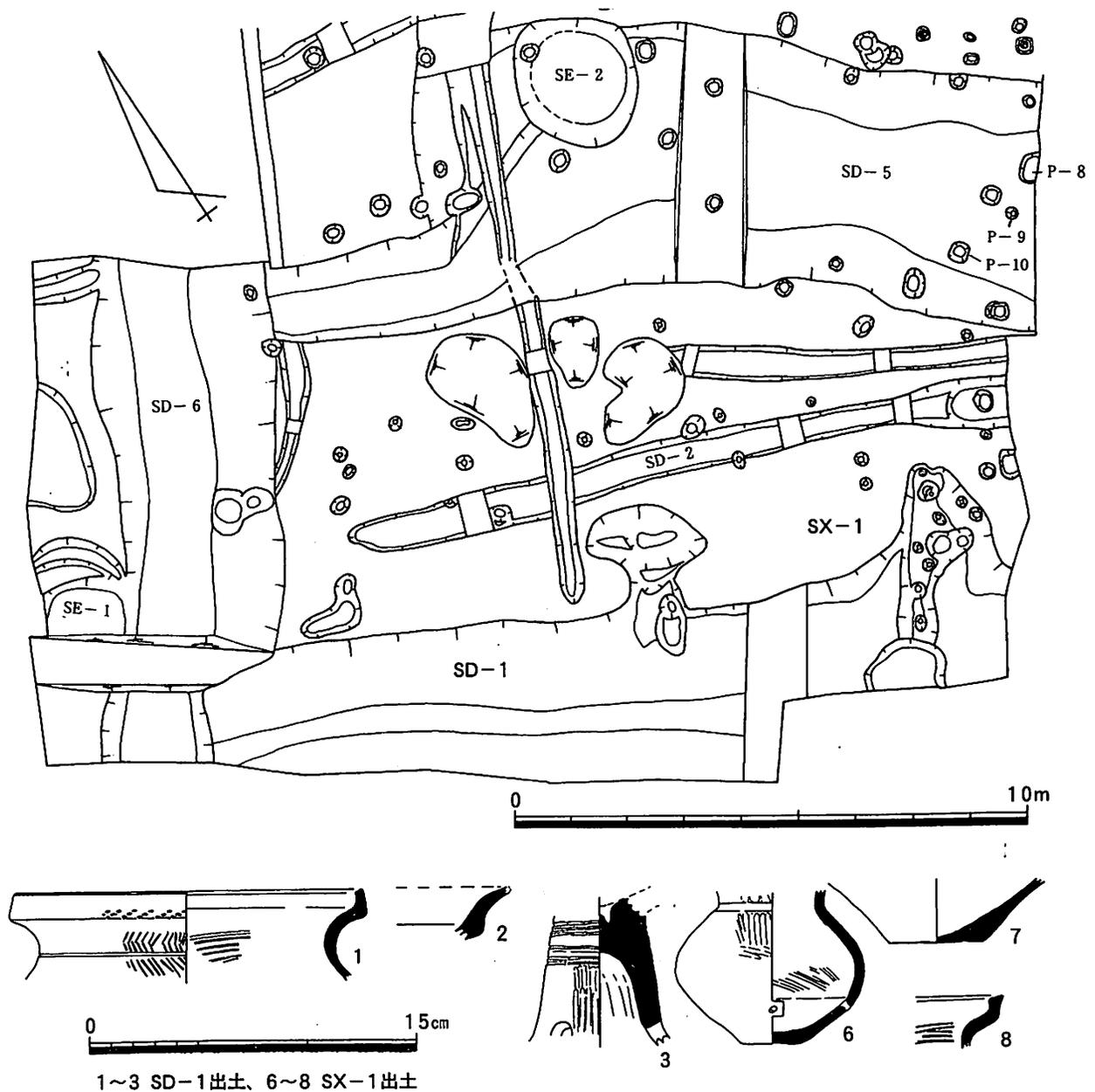


插图26 伊勢遺跡全体図

このSD-1は区画整理に伴う28次調査及び平成16年に実施された栗東市による小学校新設工事に伴う調査によって上流側が調査されている。45次調査地点より下流側は古代から中世の流路や現井上川などによって切られ不明である。既往調査からするとA・B地点で若干屈曲しながら、東西方向に直線的に伸びていることがわかる。さらに上流部は、57次調査および栗東市野尻側の道路新設工事に伴う調査でも検出されていないことから、蜂屋へぬける現況の道路下へ伸びることが想定される。若干蛇行するが、方形区画の南側前面を東西に伸びる流路であることが想定される。SD-1は地形的に南側へ落ちていく所に東西方向に伸びており、自然流路とみられるが、方形区画前面を直線的に東西に区画していることや45次地点のように直交する溝が掘られている点などから、若干人工的な管理が加えられた流路と推定される。断面観察の結果から、水が勢いよく流れていたと考えられ、大型建物群が機能していた時代、その水を利用していたことは容易に推測される。



挿図27 SD-1・SX-1と出土遺物（45次調査）

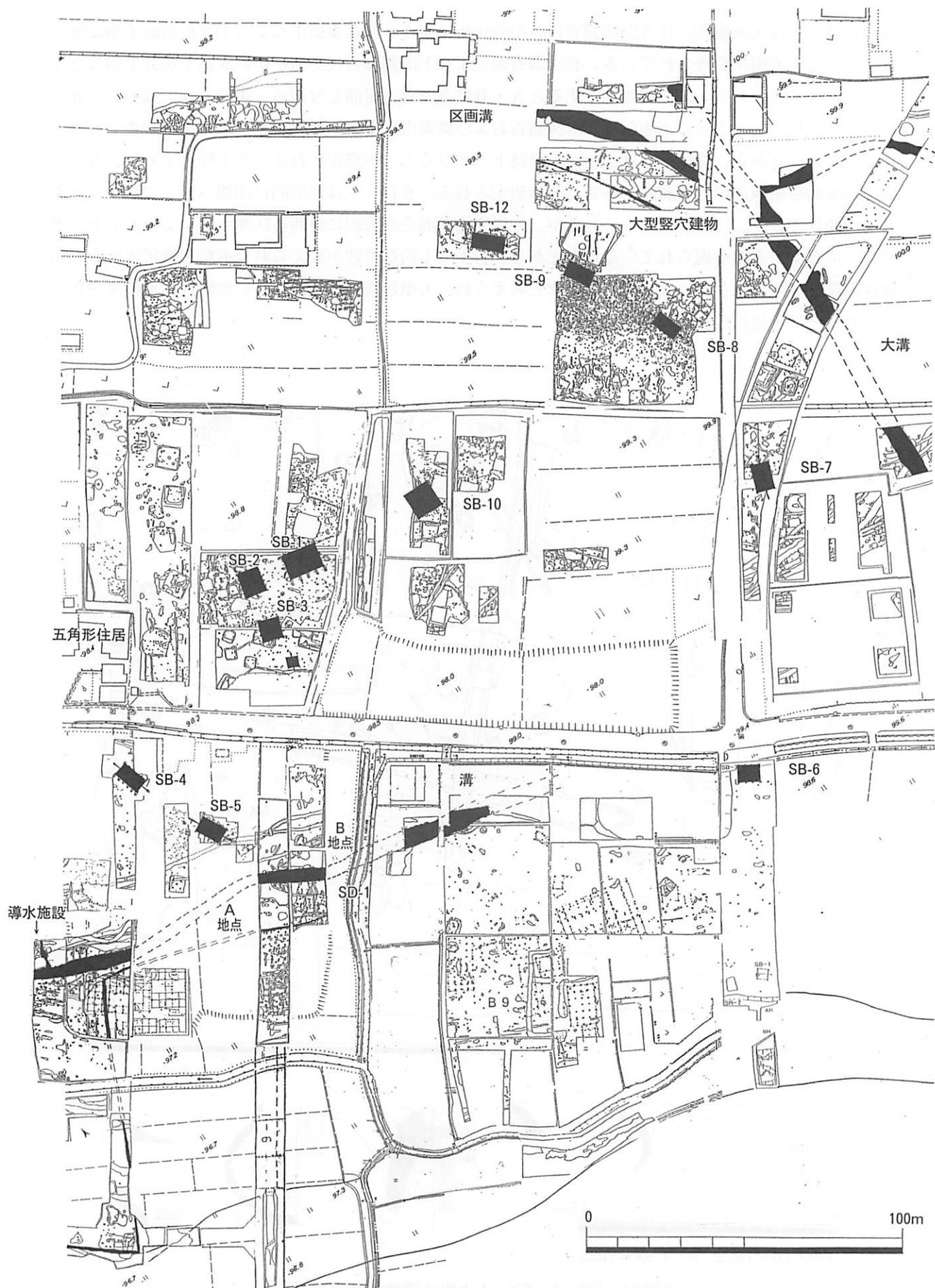


插图28 伊勢遺跡東半部平面図

2 伊勢遺跡南側の空間利用

本報告ではこのSD-1より南側の低地部の調査成果を多く収録しているが、その成果は殆ど遺構がないことである。レンガ工場操業時に、粘土採掘が広範囲に行われ遺構が失われたことも想定されるが、残された地山でも殆ど弥生時代の遺構は検出できなかった。中世の集落跡は見られるが、旧河道沿いには少ない。SD-1より南側で、弥生時代後期に遡る遺構はクランク状の屈曲する溝(SD-50)であるがその周辺からは殆ど遺構が検出されていないことから性格等は不明と言わざるを得ない。ただ、SD-1と区画溝によって台形状の方形区画を形成している点で注目されるが、今回の調査では弥生時代の遺構は検出されず、広場のような空間と推測される。

SD-1下流地点の南側では7基の方形周溝墓が検出されており、墓域として利用されていたことがわかっている。方形周溝墓群はL字型に溝で区画された中にあり、伊勢遺跡では溝が空間利用の仕切の役割を果たしていることが推測される。

野尻地区ではSD-1と旧河道との間に百m弱の空間が存在する。ここでは大型の屋内棟持柱建物SB-6の他、井戸、竪穴住居2棟、掘立柱建物等が検出されているが⁽²⁾、やはり遺構密度は低い。同地点では円周上に大型建物が配置されているか注目されたが、検出されず空白地となっていたことが判明した。SD-1の南側に位置すると推定されるSB-6は伊勢遺跡では一般的な独立棟持柱建物ではなく、古墳時代の首長居館へつながる屋内棟持柱建物であることに注目すると、SD-1の北と南では異なる機能を持つ建物が配置されていたことが想定される。

以上のとおり、伊勢遺跡南側の低地部は遺構が希薄で、空白地あるいは広場が想定されるほか、墓域としても利用されており大型建物群が形成された空間と著しく異なっていることがわかる。また広場や墓域が溝によって方形に区画された中にあるが、居住空間として日常的に利用されていなかったことがわかる。

3 溝を取水源とする導水施設

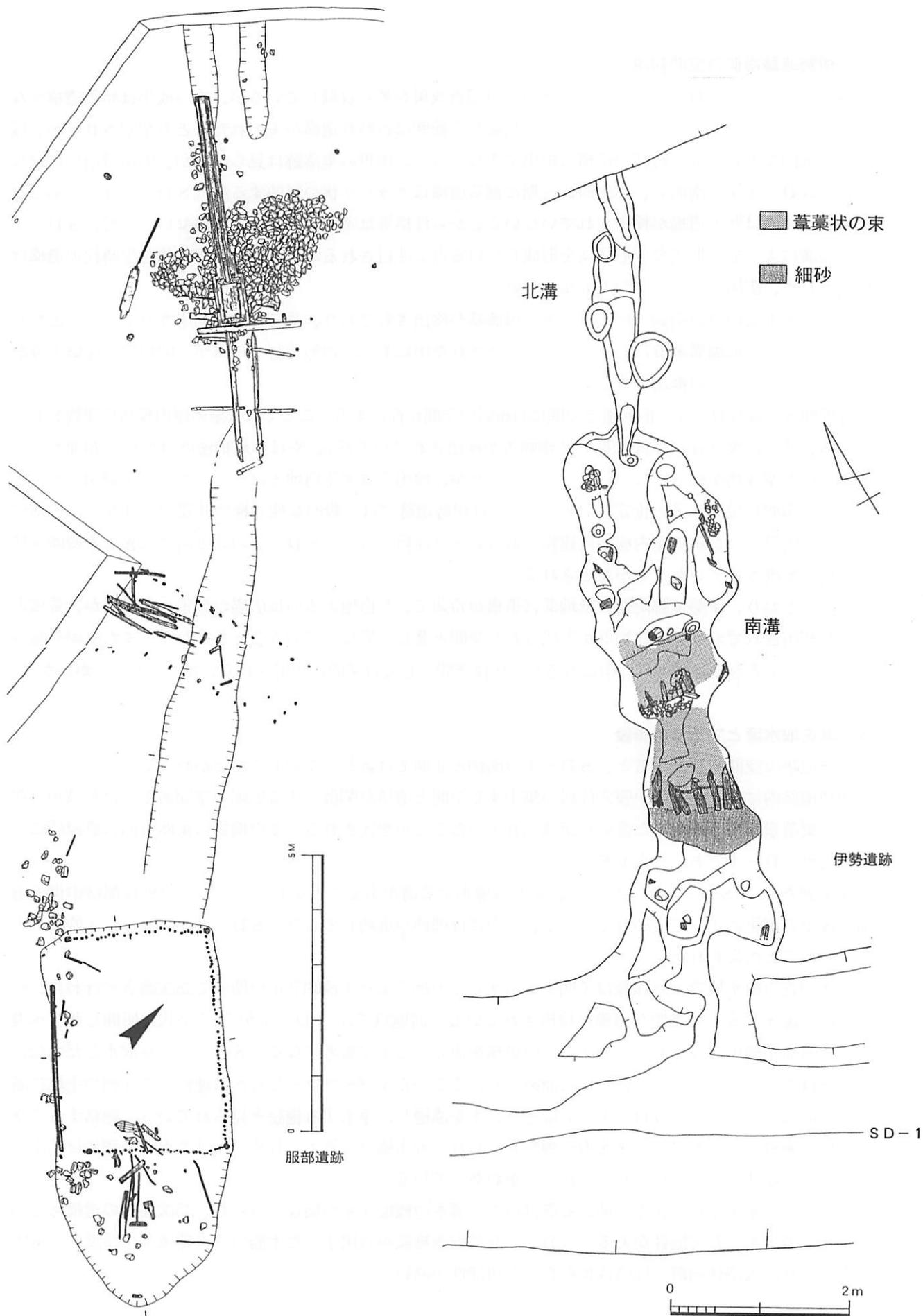
伊勢遺跡の空間利用をみると、SD-1の南側と北側では著しい差があることがわかる。

伊勢遺跡内には大型建物や竪穴住居が集中する空間と遺構が閑散とする広場・空間あるいは墓域が存在する。集落景観でも際だった違いが認識されていたことが想定される。その境界は東西方向に直線的のびる流路SD-1であったと推測される。

45次調査ではSD-1から取水し、北方へ導水する溝があることがわかった。その延長部は中世の遺構や後世の削平によって失われていたが、溝内には細砂が堆積しており、SD-1から水を人工的に取水していたことが窺われた。

45次調査の取水施設の具体像は不明であるが、この地点より上流約70mの地点で28次調査が行われ、その機能を復元する上で重要な遺構が検出されている。同地点ではSD-1からT字状に屈曲し北方へ導水する遺構が検出されており、45次地点の遺構を復元する上で参考になる。SD-1から取水した水は、矢板を打ち、小礫を裏込めした土坑に溜められ、そこからオーバーフローした水は連結する北側の土坑に溜まる構造になっている。SD-1から取水した水を濾過し、浄水する施設と見られている。連結する2基の土坑で濾過された水はさらに北方へ導かれており、導水施設と考えられる。2基の土坑の底には粘土が貼られ、葦原状の植物が敷かれていたことがわかっている⁽³⁾。

連結する2基の土坑と北方へ伸びる溝は浄水と導水の機能をもつ施設とみられ、45次地点の遺構もそのような施設であった可能性がある。SD-1及び取水施設から出土した土器から後期後半に埋没した遺構と考えられ、大型建物群と同時代に存在した可能性が高い。



挿図29 服部遺跡・伊勢遺跡の導水施設

4 導水施設の歴史的意義

導水施設は奈良県纏向遺跡⁽⁴⁾や滋賀県守山市服部遺跡⁽⁵⁾など古墳時代の集落遺跡から十数例発見されている。これらの遺構は水を通す木樋部分と浄水する槽部分からなり、導水部に石を貼った貯水施設や杭等による堰を伴うものが見られる。伊勢遺跡の場合、纏向遺跡や服部遺跡例のように浄水・導水施設は木樋・木槽作りではないが、同様な機能をもつものと推定される。纏向遺跡では木樋から寄生虫卵が出土しており、排泄物に係わる遺構とも考えられている。ただ、このような遺構が集落遺跡全般で発見されるわけではなく、纏向遺跡や伊勢遺跡、服部遺跡など特異な内容をもつ遺跡から出土していることから、祭祀にかかわる遺構である可能性が高い。また、群馬県三ツ寺遺跡の首長居館に導水施設⁽⁶⁾が取り込まれている例があり、古墳時代首長の祭祀に深くかかわる施設と見られる。

古墳時代中期になると導水施設は大阪府心合寺古墳⁽⁷⁾や三重県宝塚1号墳例⁽⁸⁾のように土製品や石製品として冚形埴輪を伴い古墳の祭祀に取り込まれている。さまざまな形象埴輪に伴い、古墳内に付設された導水施設は、古墳時代の首長の祭祀に深くかかわりをもつ施設であったことが推測される。伊勢遺跡SD-1から取水し北方へ導水するこれらの施設は、古墳時代の首長層の祭祀へつながっていく先駆的な例として評価される。

5 まとめ

28・45次調査で検出された導水施設は、大型建物群が造営された遺跡東半部からすると遺構が希薄な周辺部にあたる。ただ、60m東側では2棟の独立棟持柱付大型建物が発見されており、遺構は希薄であるが祭祀にかかわる重要な役割を担っていたことが推定される。

大型建物群が集中する遺跡東半部の南側前面は遺構が希薄であるが、そこに東から西へ直線的に伸びるSD-1は遺跡内部を区画する重要な役割を持っていたと考えられる。方形区画や円周上の配置された大型建物群など、特殊な空間の南西側外部に導水施設が設置されている。強大な権力をもつ王・首長が政治や祭祀を執り行うにあたって禊ぎなど身を清める行為がこの場で行われた可能性もある。導水祭祀の具体像は不明であるが、大型建物とセットとなり、首長が執り行う祭祀遺構と考えられる。

導水施設の方向は南北方向で、大洲地区の大溝や方形区画の方位に平行しており、計画的に配置された遺構の一つとみられる。伊勢遺跡の東端を画する大溝や中心部の大型建物群、西端の方形周溝墓群を囲む区画溝等、伊勢遺跡内部には正確な南北軸がみられる。導水施設もその軸線上にあり規格性が高く、政治・祭祀に係わる施設と考えられる。

全国的にみても、纏向遺跡や服部遺跡の古墳時代前期の導水施設に先行する事例であり⁽⁹⁾、当初より首長の祭祀として成立していたとみてよい。古墳時代首長層が王の祭祀として取り込んだ導水施設は弥生時代後期の伊勢遺跡においてクニの政治や祭祀に係わる施設として先駆的に導入されていた可能性がある。その後、初期ヤマト政権の祭祀として受け継がれ、古墳時代中期には古墳上の祭祀として形式化されたのであろう。

参考文献

- (1) 「伊勢遺跡の調査（第45次調査）」『平成8・9年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書』1999・3 守山市教育委員会
- (2) 「野尻遺跡現地説明会資料」栗東市教育委員会・栗東市立文体事業団2005・2
- (3) 小島睦夫「伊勢遺跡28次調査概要報告書」守山市教育委員会 2000・3
- (4) 萩原儀征「纏向一巻の内家ツラ地区一」『大和を掘る1987年度発掘調査速報展Ⅷ』

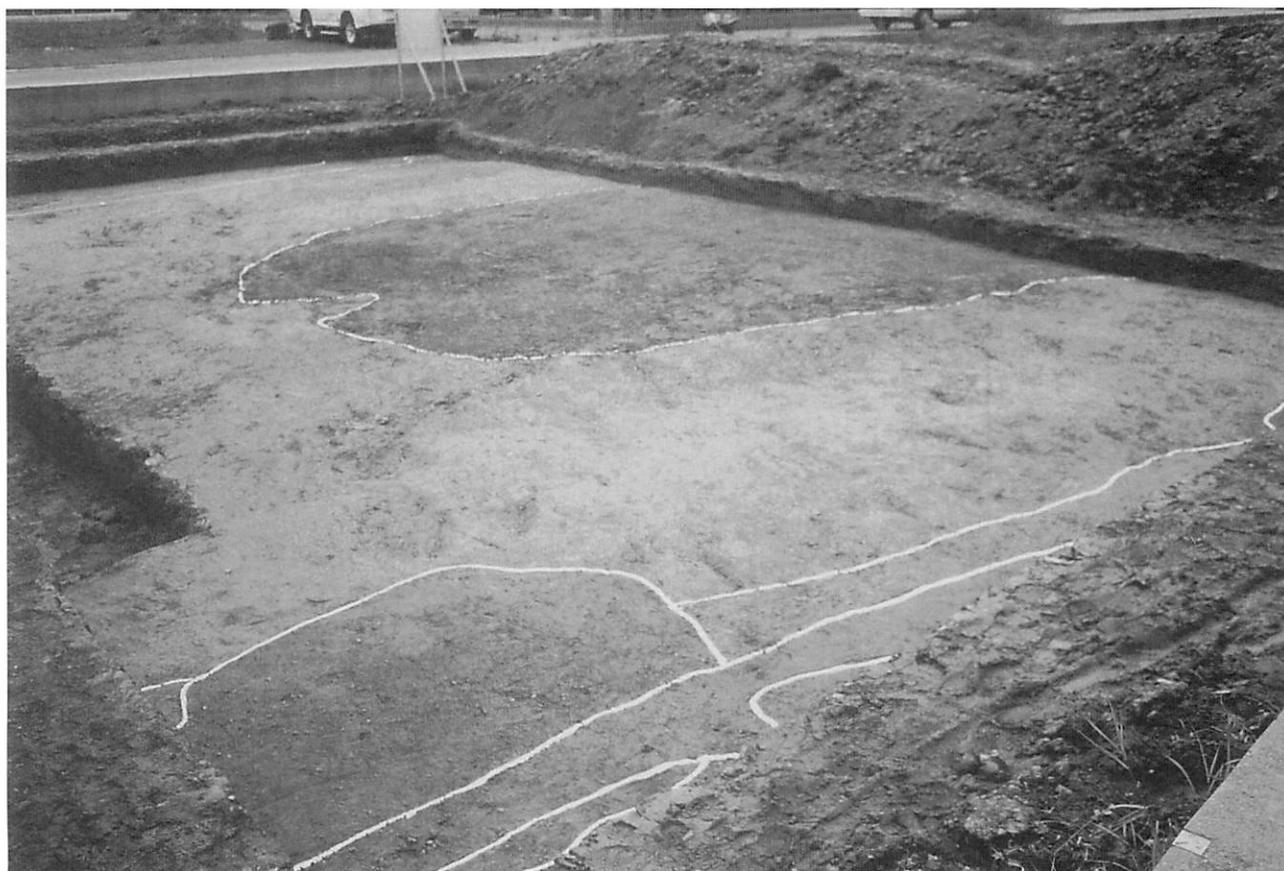
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

- (5) 『服部遺跡発掘調査概要報告書』1980・3 滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・滋賀県文化財保護協会
- (6) 三ツ寺
- (7) 『史跡 心合寺山古墳発掘調査概要報告書』八尾市文化財調査報告45 八尾市教育委員会 2001
- (8) 『舟形埴輪 松坂宝塚1号墳調査概報』松坂市教育委員会編 2001・4 学生社刊
- (9) 坂 靖「古墳時代の導水施設と祭祀—南郷大東遺跡の流水祭祀—」『考古学ジャーナル』398号 ニューサイエンス社 1996
青柳佳奈「古墳時代の導水施設—圀形遺構の性格と変遷—」『古事』2003.3.天理大学考古学研究室紀要第7冊

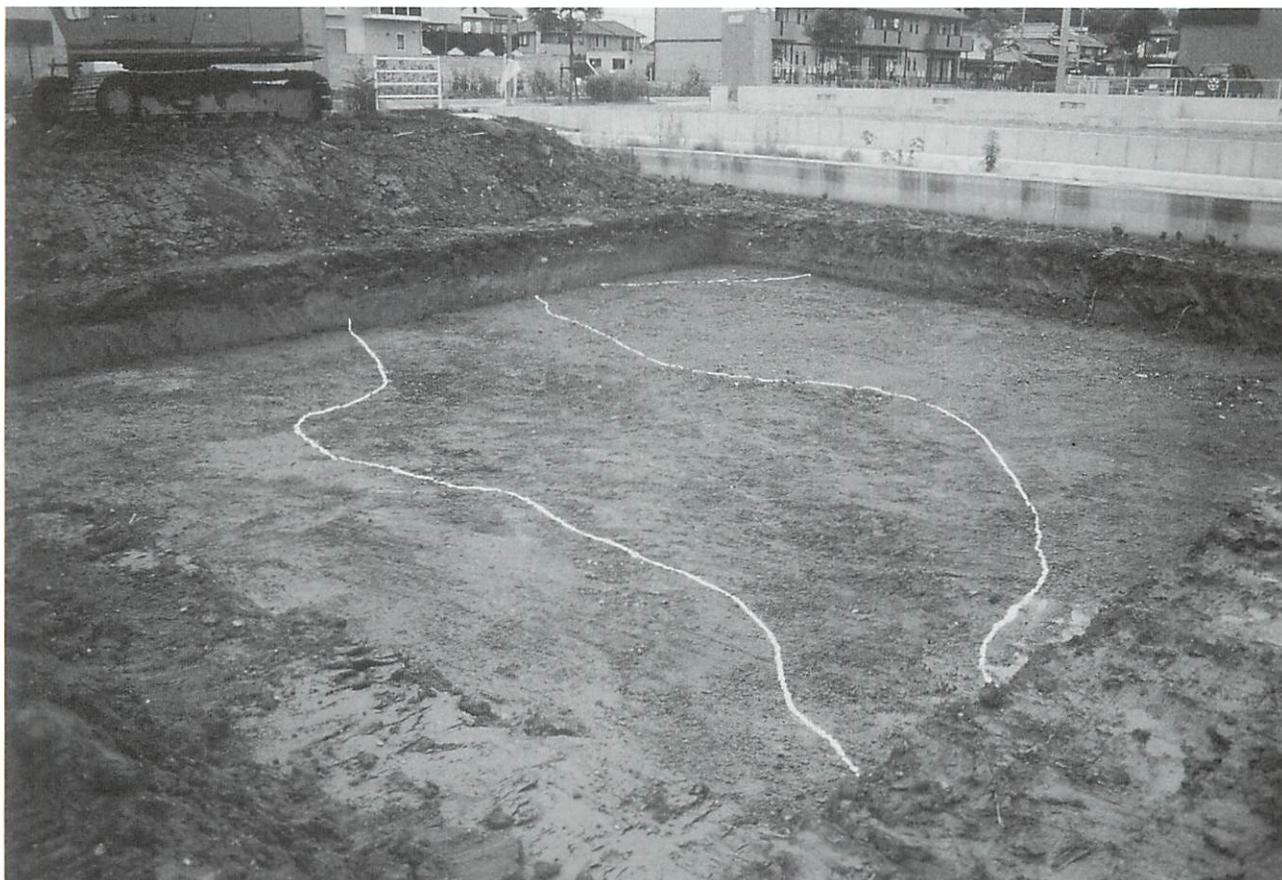
圖 版



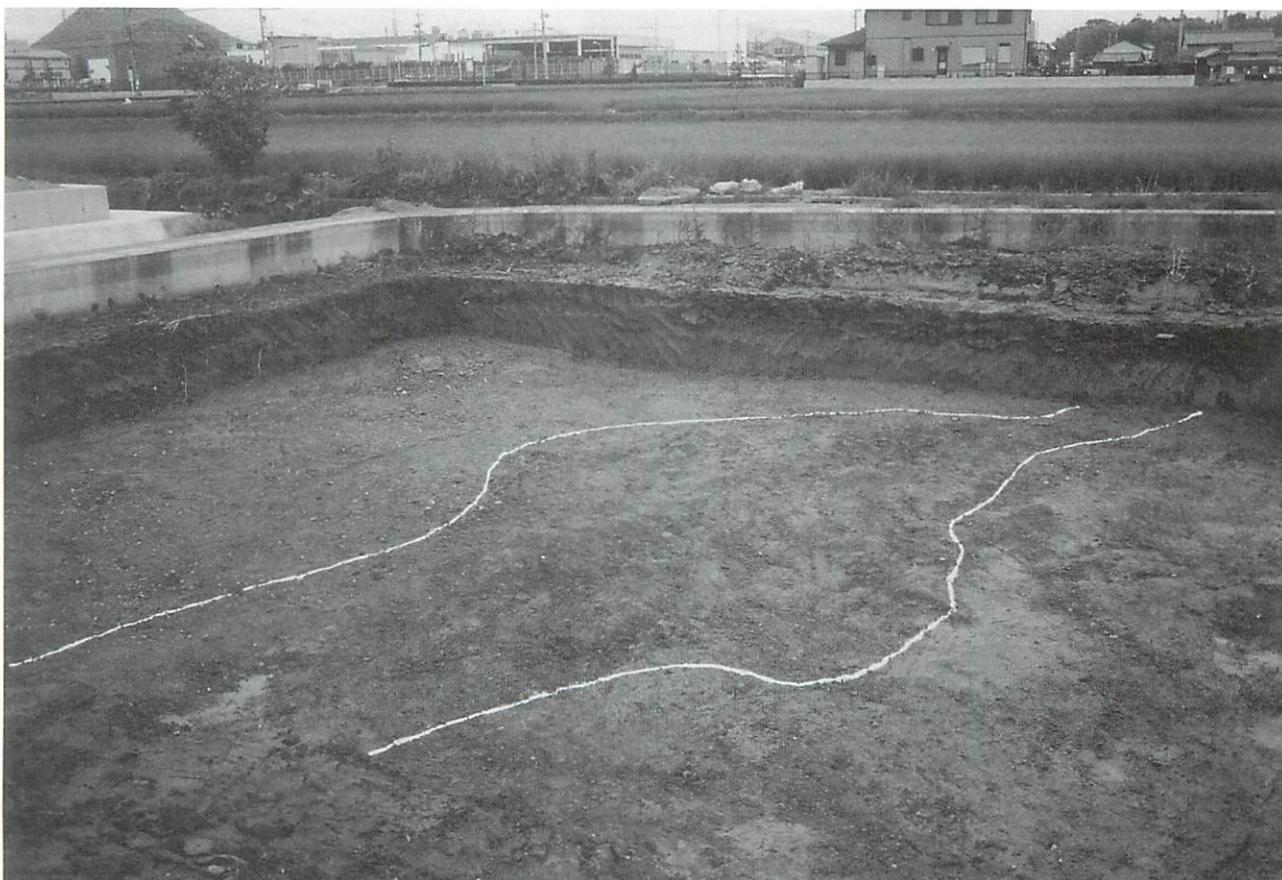
調査地全景（南から）



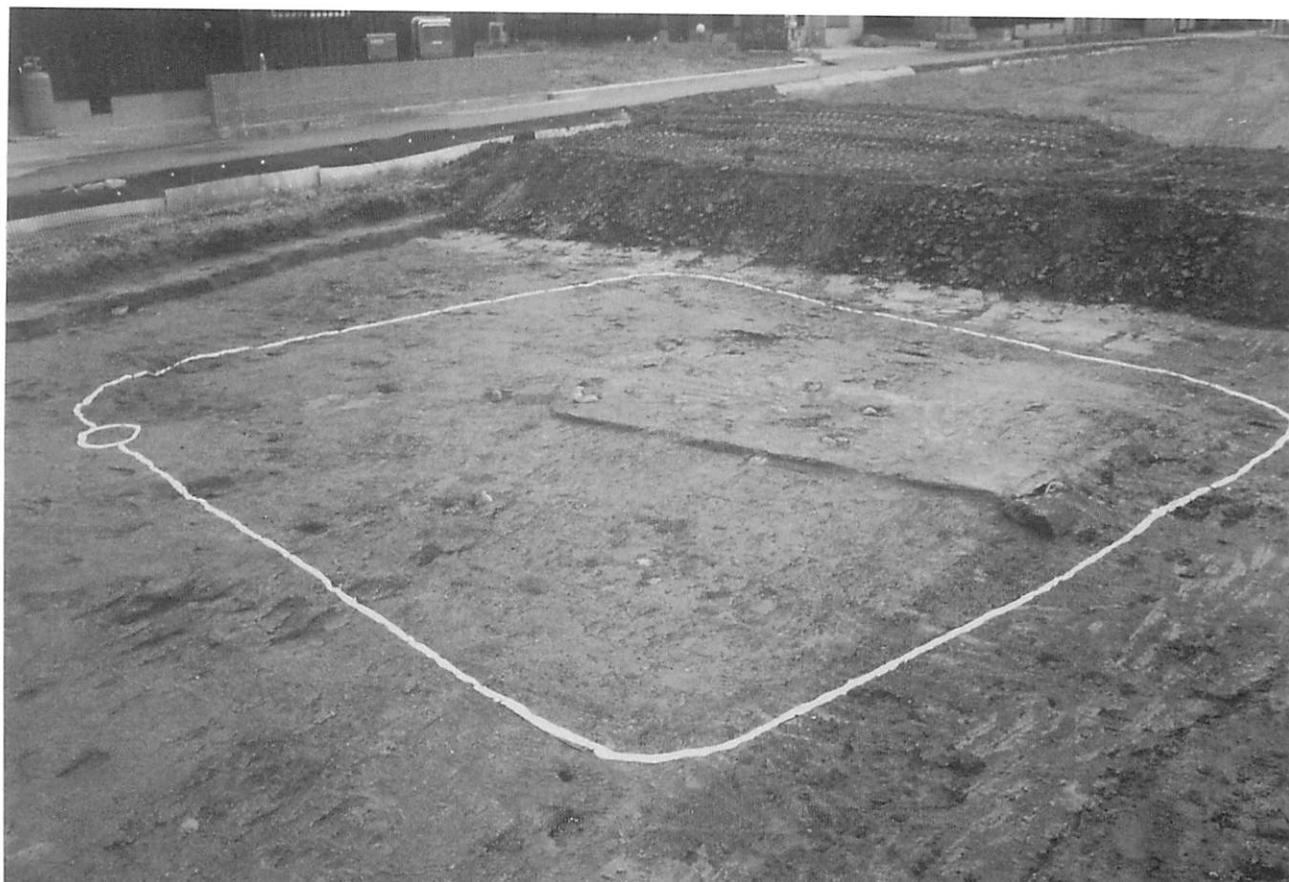
調査地全景（東から）



調査地全景（東から）



調査地全景（西から）



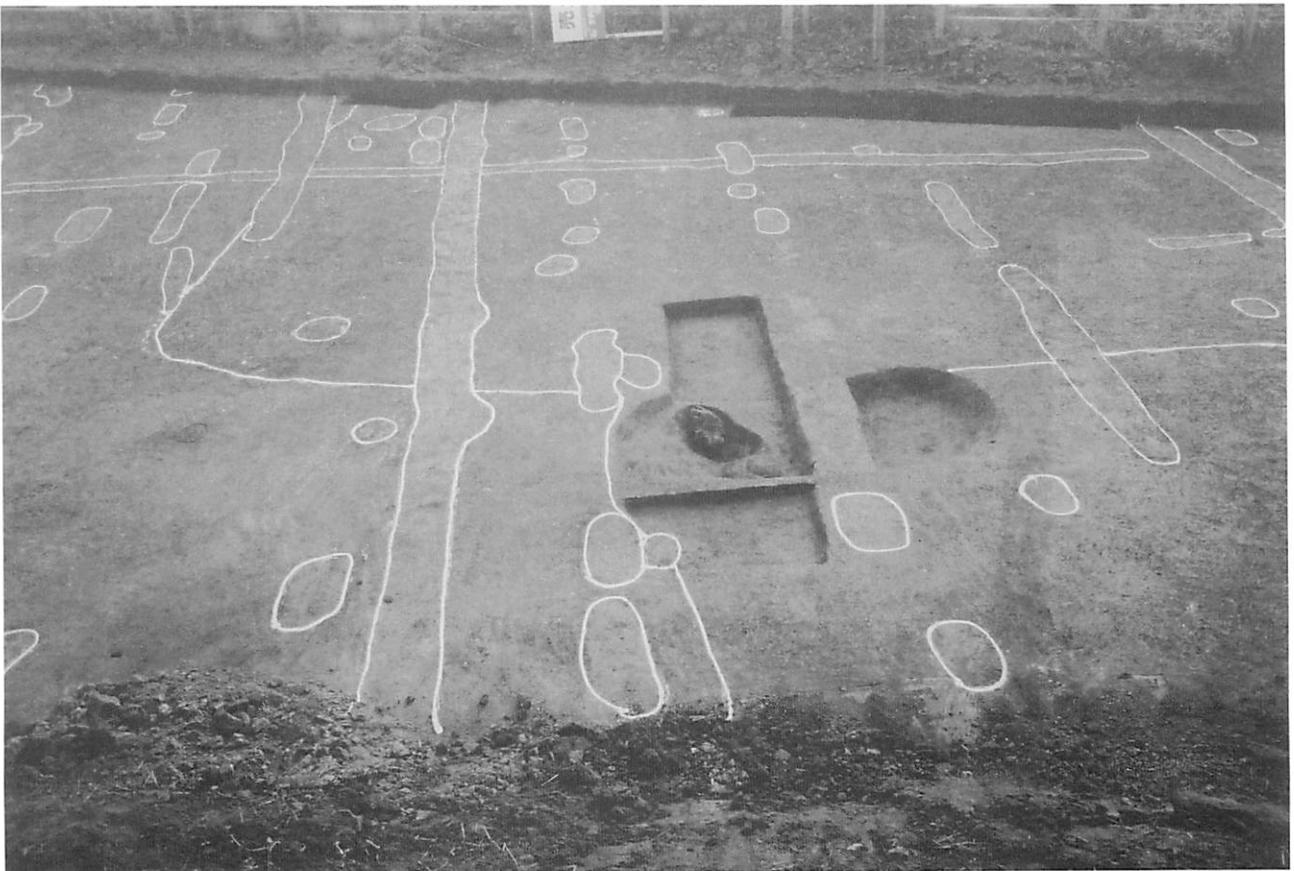
SH-1 検出状況 (東から)



SH-1 堀削風景 (東から)



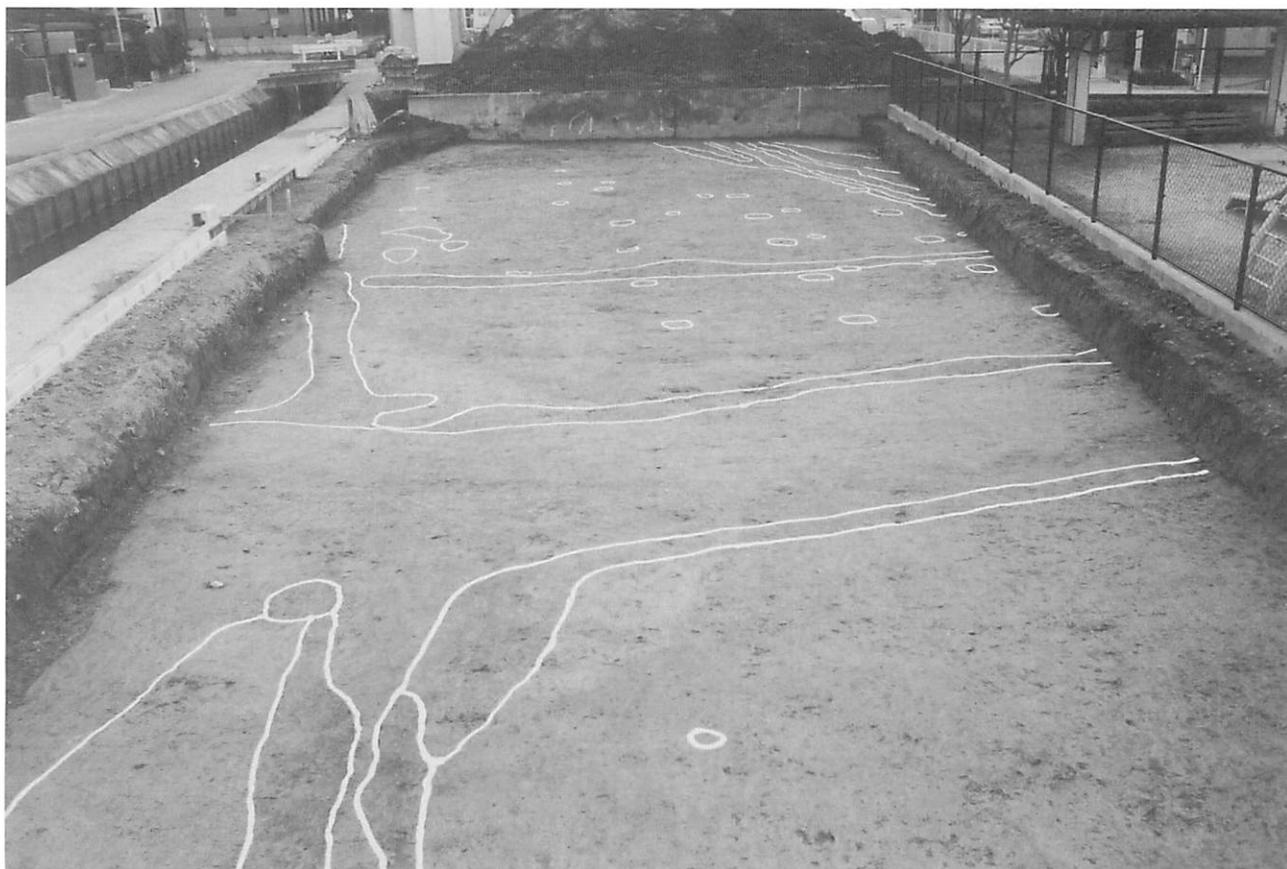
遺構検出状況（東から）



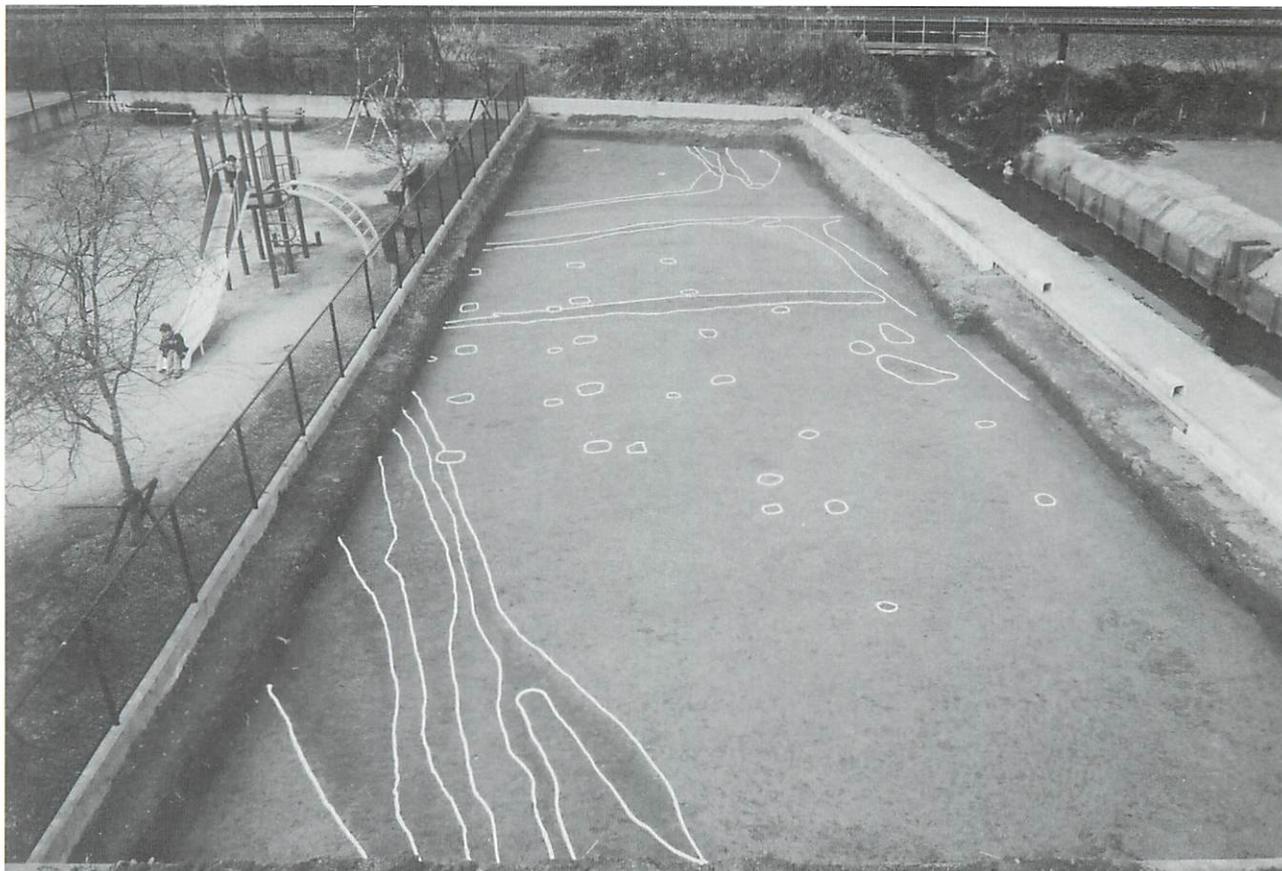
遺構検出状況（北西から）



調査前風景（南東から）



遺構検出状況（北西から）



調査地全景（南東から）



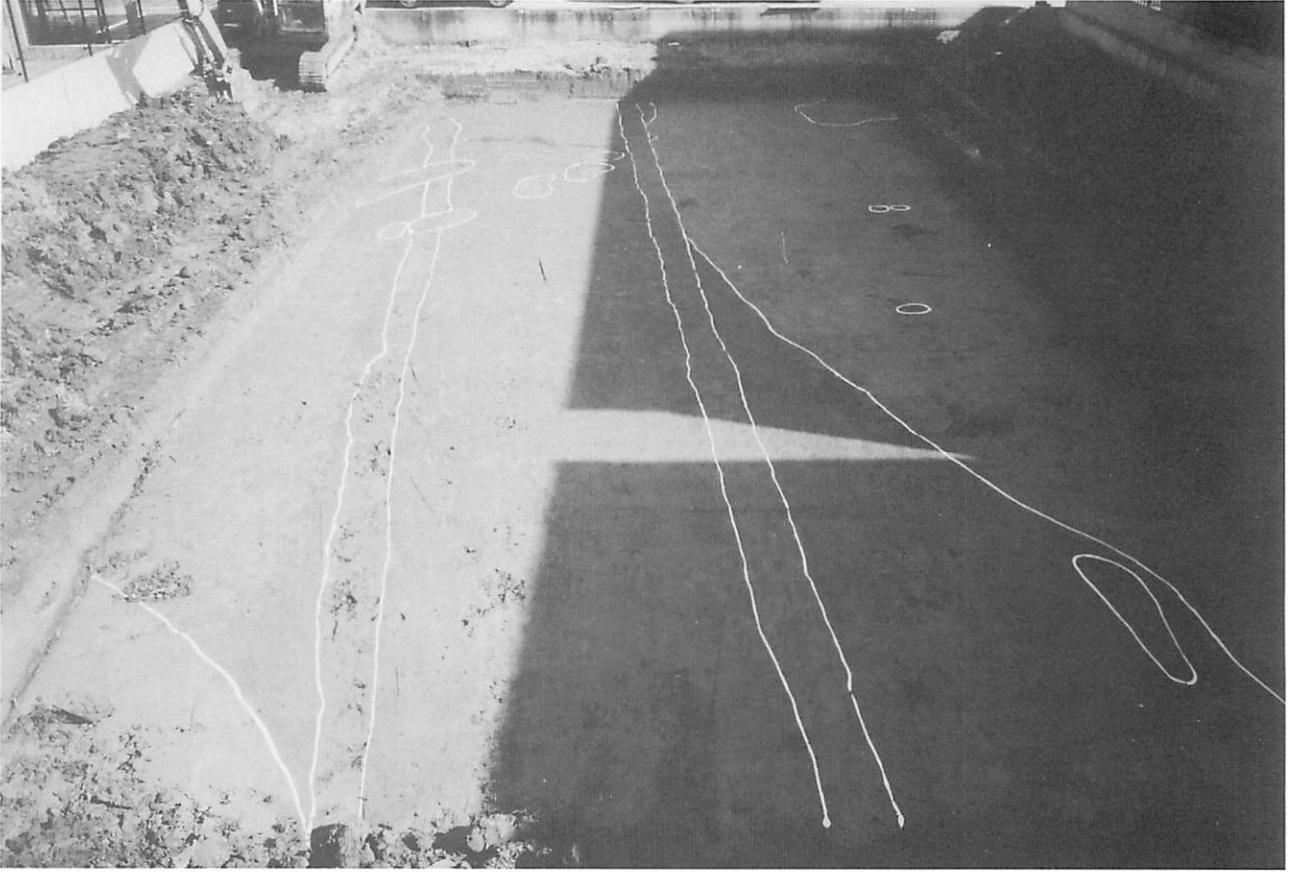
S B - 1 検出状況（北から）



調査地全景（東から）



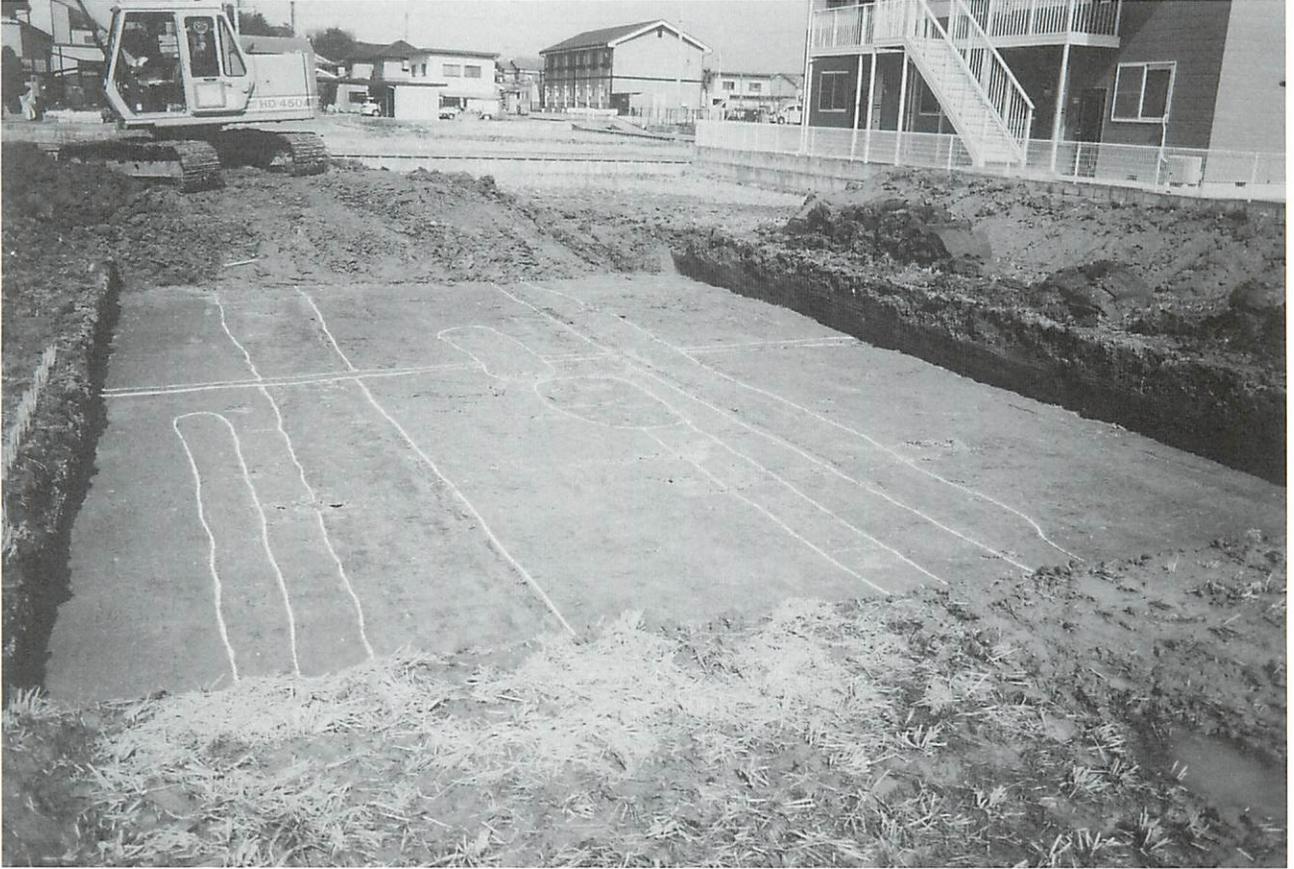
調査地全景（北から）



遺構検出状況（北西から）



遺構検出状況（北西から）



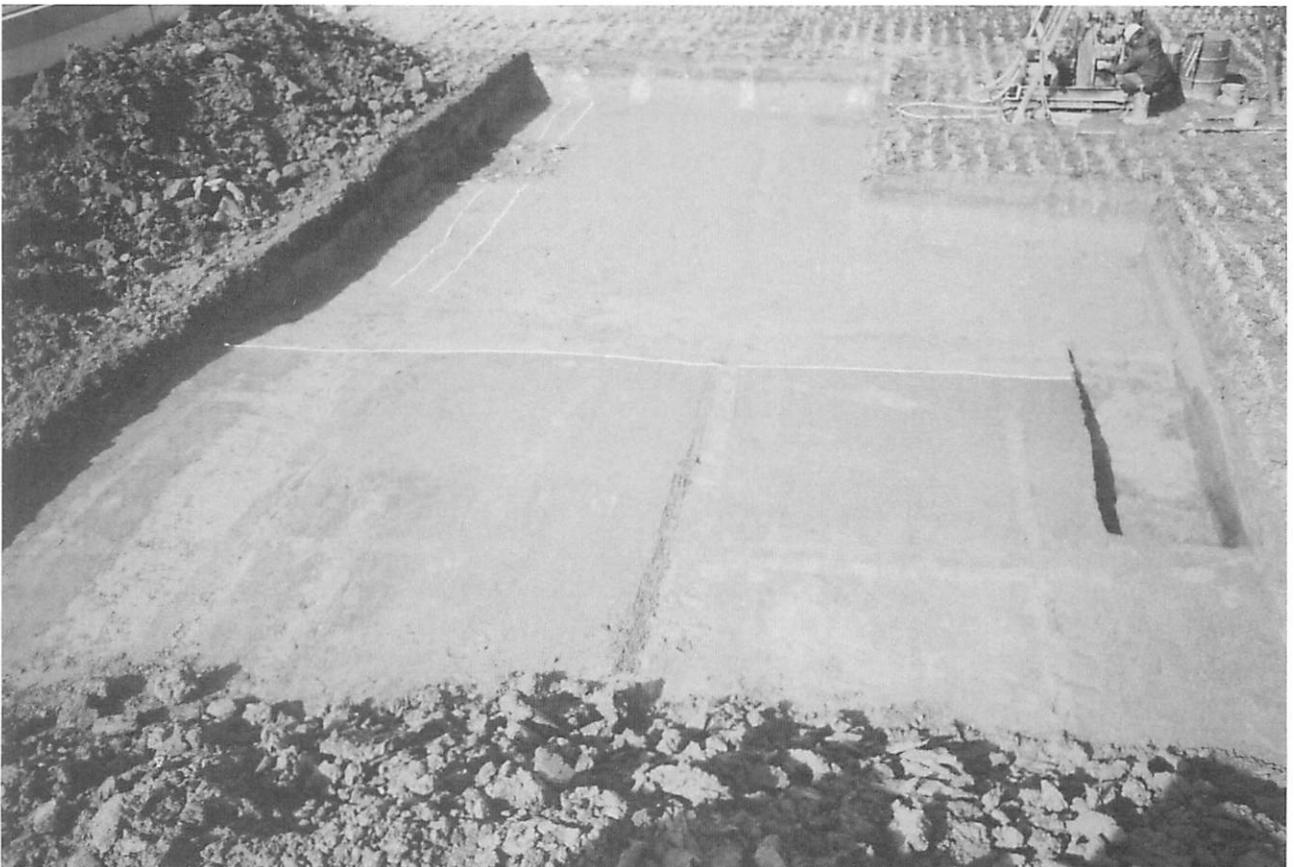
調査地全景（南西から）



遺構検出状況（南から）



調査風景（北東から）



調査地全景（南西から）



旧河道断面（西から）



旧河道断面（北から）



調査地全景（南西から）



遺構検出状況（北西から）



調査地全景（南から）



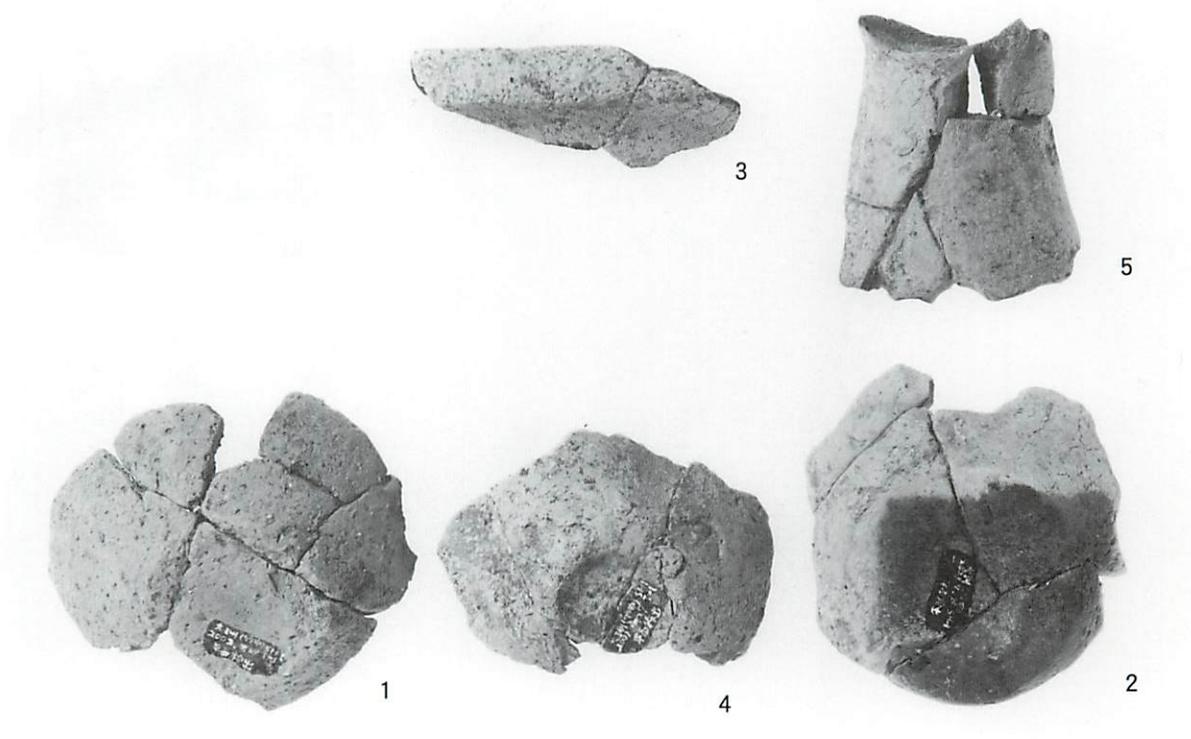
調査地全景（南から）



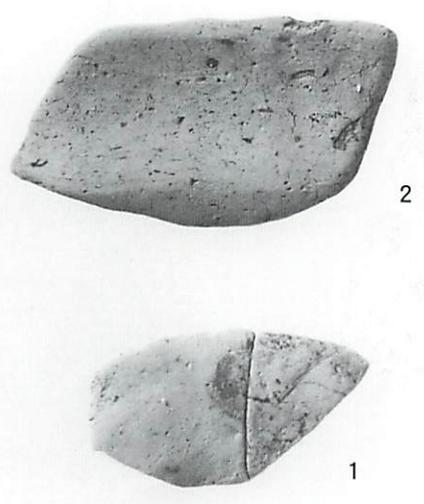
遺構検出状況（南西から）



遺構検出状況（北西から）



78⁹次調査出土遺物



84次調査出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	いせいせきかくにんちょうさほうこくしょⅣ							
書名	伊勢遺跡確認調査報告書Ⅳ							
副書名	守山市文化財調査報告書							
編集者名	伴野 幸一							
編集機関	守山市教育委員会 教育長 山川 芳志郎							
所在地	〒524-0021 滋賀県守山市吉身二丁目5番22号 TEL 077-583-2525							
発行年月日	平成18年3月							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	〃 〃				〃 〃
伊勢遺跡	滋賀県守山市 伊勢町 阿村町	25207	045	35° 2'	135° 52'	平成14年 4月～ 平成16年 3月	2,500	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
伊勢遺跡	集落跡	弥生時代		竪穴住居 溝 柱 穴		弥生土器		

伊勢遺跡確認調査報告書Ⅳ

守山市文化財調査報告書

発行日 平成18年3月

編集・発行 守山市教育委員会

滋賀県守山市吉身二丁目5番22号

印刷 株式会社 スマイ印刷工業